

FS 120, 120 R, 250

STIHL



2 - 43 取扱説明書



目次

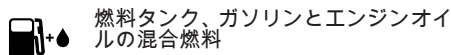
| | | |
|----|--|----|
| 1 | はじめに..... | 2 |
| 2 | 使用上の注意および作業方法..... | 2 |
| 3 | 組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス..... | 12 |
| 4 | 承認されたパワーツール アタッチメント..... | 13 |
| 5 | バイク ハンドルの取り付け..... | 13 |
| 6 | ループ ハンドルの取り付け..... | 15 |
| 7 | スロットルケーブルの調整..... | 16 |
| 8 | 吊り下げ用リングの取り付け..... | 17 |
| 9 | デフレクターの取り付け..... | 18 |
| 10 | カッティング アタッチメントの取付け..... | 19 |
| 11 | 燃料..... | 22 |
| 12 | 給油..... | 23 |
| 13 | ハーネスの取付け..... | 23 |
| 14 | ユニットのバランス..... | 25 |
| 15 | エンジンの始動と停止..... | 26 |
| 16 | 機械の運搬..... | 28 |
| 17 | 作業中の注意事項..... | 30 |
| 18 | エアー フィルター..... | 31 |
| 19 | キャブレターの調整..... | 31 |
| 20 | スパーク プラグ..... | 32 |
| 21 | エンジンの動作..... | 33 |
| 22 | ギヤーボックスの注油..... | 33 |
| 23 | スターター ロープとリワインド スプリングの交換..... | 34 |
| 24 | 機械の保管..... | 36 |
| 25 | 金属製カッティング ブレードの目立て..... | 36 |
| 26 | カッティング ヘッドの保守..... | 36 |
| 27 | ユーザーによる点検と保守..... | 38 |
| 28 | スチール販売店による点検と保守..... | 38 |
| 29 | 整備表..... | 38 |
| 30 | 磨耗の低減と損傷の回避..... | 39 |
| 31 | 主要構成部品..... | 40 |
| 32 | 技術仕様..... | 41 |
| 33 | 整備と修理..... | 42 |
| 34 | 廃棄..... | 42 |
| 35 | EC 適合証明書..... | 42 |
| 36 | アドレス..... | 43 |

1 はじめに

1.1 シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

2 使用上の注意および作業方法



現地で適用される安全規制（業界団体、社会保険機関、労働安全局等が定める規定）にすべて従ってください。

油煙・粉塵・白粉使用
必ずリサイクル可能です。

© ANDREAS STIHL AG & Co. KG 2023
0458-250-4321-F: V/A4K23

本機を初めて使用する場合：STIHL サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作法を教わるか、専門的な研修に参加してください。

未成年者には絶対に本機を使用させないでください - ただし、監督下で作業を進める 16 歳以上の訓練生は例外です。

子供、動物、見物人を近付けないでください。

機械を使用しないときは、他人に危険が及ばないように配慮して下に置いてください。機械が無断で使用されないよう対策を講じてください。

第三者の事故/負傷またはその所有物の損壊を防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書を一緒に手渡してください。本機の使用が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国、地域、現地の規制によって一日の特定の時間帯に制限されている場合があります。

機械の操作者は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、かかりつけ医に相談してから機械を使用してください。

ペースメーカー着用者向けの注意点：本機のイグニッションシステムは微弱な電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを低減するために、STIHL 社ではペースメーカー着用者にかかりつけ医やペースメーカー製造業者に相談されることをお勧めしています。

動作を鈍らせるアルコール、薬物、薬剤を服用した状態では、本機を使用しないでください。

装着したカッティングアタッチメントに応じて、パワーツールは芝、雑草、灌木、藪、茂み、径の小さい木々等の切断用にのみ使用してください。

本機を他の目的に使用しないでください - **事故が起きる危険があります！**

STIHL 社がこのパワーツールに使用することを明示的に承認したか、技術的に同等のカッティングアタッチメントとアクセサリーだけを装着してください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。事故や本機の損傷を防ぐために、高品質の部品とアクセサリーのみを使用してください。

STIHL 社では、STIHL 純正の交換部品とアクセサリーの使用をお勧めしています。そうした純正部品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

いかなる方法であれ、絶対に本パワーツールを改造しないでください。負傷する危険性が高まるおそれがあります。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物的損害に対して一切法的責任を負いません。

本パワーツールの清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷するおそれがあります。

本機に取り付けたガードは、作業者を回転するカッティングアタッチメントによって飛散する物体（石、ガラス、ワイヤー等）の一部からしか保護することはできません。物体が飛散し、作業者に当たるおそれがあります。

2.1 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。ゆったりとした上着ではなく、つなぎ服等の身体にびつたりフィットする衣服を着用してください。



木々、茂み、機械の可動部品に絡まるおそれがある衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具は身に付けないでください。長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。



靴底が滑らない、爪先に鋼板の入った安全靴を履いてください。

草刈ヘッドを使用する場合に限り、靴底が滑らない頑強な作りの靴も着用できます。



警告



目を負傷する危険を低減するために、European Standard (欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが適切にフィットしていることを確認してください。

フェイスシールドを着用し、適切にフィットしているか確認してください。フェイスシールドだけでは眼を十分に保護できません。

「個人」用のイヤープロテクター（例えばイヤーマフ）を着用してください。

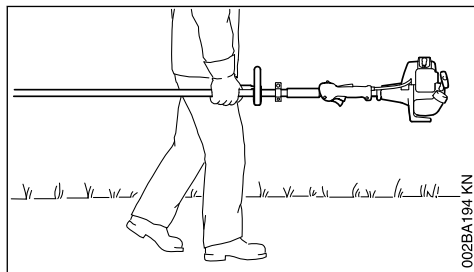
間伐作業や高い茂みで作業を行うときや、落下物で頭部を負傷する危険があるときは、安全ヘルメットを着用してください。



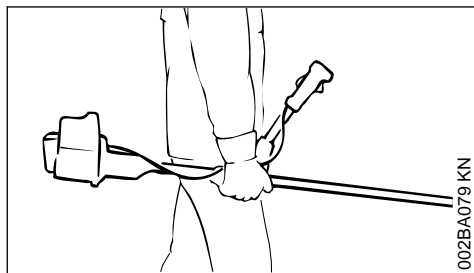
耐性素材（革など）でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護服や防護装備を取り揃えております。

2.2 機械の運搬



002BA194 KN



002BA079 KN

必ずエンジンを切ってください。

機械のバランスが保たれるよう、ハーネスで吊り下げるか、シャフトを持って機械を運搬します。

切傷を負う危険を低減するために、短距離を運搬する場合でも、カuttingアタッチメントに運搬用ガードを取り付けてください。「機械の運搬」も参照してください。



機械の高温の部品やギヤボックスには触れないでください。火傷をするおそれがあります！

車両輸送：転倒、損傷、燃料漏れを防ぐために機械を適切に固定してください。

2.3 給油



ガソリンは可燃性が極めて高い燃料です。火気を避けてください。燃料をこぼさないでください - 喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください - 燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。

タンク内の高圧が徐々に抜け、燃料が噴き出さなくなるよう、燃料キャップは慎重に開けてください。

必ず換気の良い場所で給油してください。燃料がこぼれたときは、直ちに機械を清掃してください - 燃料が衣服にはね飛ばないように注意してください。燃料が衣服に付着したときは、速やかに着替えてください。



給油後は、燃料タンクキャップをしっかり閉めます。

確実に閉めると、燃料タンクキャップがエンジンの振動によって緩むか外れ、大量の燃料が漏れ出す危険が低減されます。

漏れの有無を確認します。燃料が漏れている場合はエンジンを始動しないでください - 重度の火傷または致命的な火傷を負うおそれがあります！

2.4 作業開始前

パワーツールが適切に組み立てられ、正常な状態になっているか点検します。本取扱説明書の関連する章を参照してください。

- 燃料システム、特に燃料タンクキャップ、ホースコネクター、手動燃料ポンプ（手動燃料ポンプ付きの機械のみ）等の目視が可能な部品が漏れていないか点検します。漏れや損傷が生じている場合は、エンジンを始動しないでください。火災が起きる危険があります！サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- 組み合わせが承認されているカuttingアタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネスのみを使用してください。すべての部品は、適正かつ確実に組み立てられている必要があります。
- スライドコントロール/停止スイッチは、容易に STOP または 0 位置に移動できなければなりません。
- スロットトリガーロックアウト（装着されている場合）とスロットトリガーは、スムーズに作動しなければなりません。スロットトリガーは、自動的にアイドル位置に戻る必要があります。
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているか点検します。緩んでいる場合は火花が発生し、可燃性のガスに引火し、火災が発生するおそれがあります！
- カuttingアタッチメントまたは交換用アタッチメント：適正に取り付けられ、しっかりと固定されており、完璧な状態にあるか確認します。
- 安全装置（カuttingアタッチメント用デフレクター、ライダープレート等）に損傷や摩耗がないか点検します。損傷した部品は、必ず交換してください。損傷したデフレクターや摩

耗したライダープレート (文字や矢印が確認不能) を取り付けたまま作業しないでください。

- 絶対に操作部や安全装置を改造しないでください。
- ハンドルは乾いた清潔な状態 (オイルや汚れが付着していない状態) に保ちます。この点は、機械を安全に操作するために重要です。
- ハーネスとハンドルを身長や手の長さに合うよう調整します。「ハーネスの取り付け」-「機会のバランスのとり方」の項を参照してください

負傷する危険を低減するために、損傷したパワーツールや適切に組み立てられていないパワーツールは使用しないでください！

ハーネス使用時の緊急事態に備えるために、本機を素早く地面に降ろす練習をします。この練習中は、機械を地面に投げ降ろさないでください。機械が損傷するおそれがあります。

2.5 エンジンの始動

給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限りです。

機械を屋外の安定した地面に置きます。バランスと安定した足場を確保してください。機械をしっかりと保持します。エンジン始動時に作動するおそれがあるため、カッティングアタッチメントを地面や他の障害物に接触させないでください。

本機は一人で操作してください。機械から半径 15 m 以内には第三者を立ち入らせないでください。始動時も同様です！飛散物で**負傷する危険があります！**



カッティングアタッチメントに触れないでください。**負傷する危険があります！**



エンジンの落としがけをしないでください。取扱説明書に従って始動してください。スロットルトリガーを放した後、カッティングアタッチメントがしばらく回転し続けます。**慣性回転効果によるものです！**

エンジンのアイドルリングを点検します。(スロットルトリガーを放した) エンジンのアイドルリング中は、カッティングアタッチメントは静止していません。

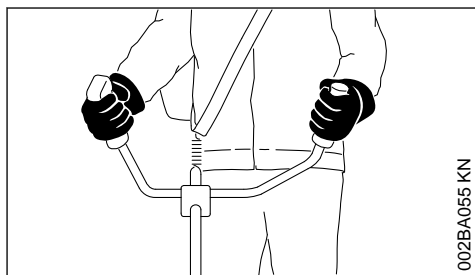
燃えやすい物 (木屑、樹皮、枯れ草、燃料等) を高温の排気ガスや高温のマフラー表面に近付けないでください。**火災が生じるおそれがあります！**

2.6 機械の保持と操作

必ず両手でパワーツールのハンドルをしっかりと保持します。

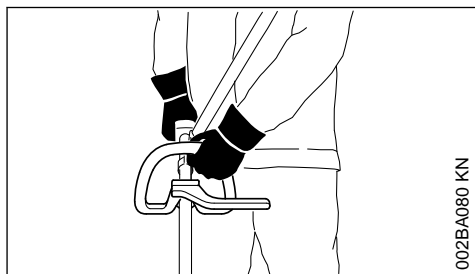
バランスと安定した足場を確保してください。

2.6.1 バイクハンドル付きの機種



右手でコントロールハンドルを握り、左手でハンドルバーのグリップを握ります。

2.6.2 ループハンドル付きの機種



ループハンドルやバリアバー付きループハンドル付きの機種については、左手でループハンドルを握り、右手でコントロールハンドルを握ります - 左利きでも同様です。

2.7 作業時

バランスと安定した足場を確保してください。

危険が差し迫っているか、緊急の場合は、速やかにエンジンを切ります。スライドコントロール/停止スイッチを **STOP** または **0** の位置に動かしてください。



作業エリア周辺の広範な場所には飛散物で事故が生じる危険があるため、機械の半径 15 m 以内には誰も立ち入らせないでください。この距離は、物体 (車両、窓ガラスなど) に対しても維持する必要があります。**物的損害が生じる危険があります！** 15 m 以上離れた場所においても、危険は皆無ではありません。

エンジンが適切なアイドルリング状態になるか点検します。スロットルトリガーを放すと、カッティングツールは停止しなければなりません。

定期的にアイドルリング回転数の設定を点検し、修正してください。アイドルリング回転時にもカッティングアタッチメントが回転する場合は、サービス店に調整または修理を依頼してください。STIHL 社では、本作業を STIHL サービス店で実施されることをお勧めしています。

滑りやすい場所では、特に注意してください。例えば濡れた面、雪や水で覆われた面、斜面、凸凹のある地面。

障害物に注意します：樹木の切り株や根。つまづく危険があります！

地面の上に立った状態でのみ作業を行い、はしごや可動式昇降台では絶対に作業しないでください。

イヤープロテクター着用時は、危険を告げる声（叫び声、警笛等）が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

疲労を感じたときは休憩を取ってください。そうしないと**事故が起こるおそれがあります！**

冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なとき以外は作業を行わないでください。慎重に作業を進め、他者に危険が及ばないように配慮してください。



エンジンが始動するとすぐに、パワーツールから有毒な排気ガスが発生します。排気ガスは無臭で目に見えない場合があります、未燃焼の炭化水素とベンゼンが含まれているおそれがあります。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

有毒ガスを吸い込んで重症または致命傷を負う危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場所での作業時は、適切に換気してください。

吐き気、頭痛、視覚障害（視野狭窄等）、聴覚障害、めまい、注意散漫が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。濃度が非常に高い排気ガスを吸い込むと、そうした症状が現れる場合があります。**事故が生じるおそれがあります！**

機械は、騒音と排気ガスの発生が最小限になるように操作してください - 不必要にエンジンをふかさず、作業時のみエンジンを加速してください。

火災の危険を低減するために、作業中や機械の付近では喫煙は避けてください。燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがあります。

作業中に発生する塵埃、噴霧、噴煙は健康を害することがあります。大量の粉塵または噴煙が発生する場合は、呼吸保護具を着用してください。

パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった（強い衝撃が加わるか、落下した）場合、必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください（「作業開始前」も参照）。

特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が完全に作動しているか確認してください。安全に操作できなくなったパワーツールは、絶対に使用しないでください。ご不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

始動スロットル位置でパワーツールを操作しないでください。この位置ではエンジン回転を制御できません。



飛散物によって負傷する危険を低減するために、使用するカッティングアタッチメントに合ったデフレクターが装着されていない場合は、絶対に機械を操作しないでください。



作業エリアを点検してください。岩、金属の物体などは挟まり、15 m を超える距離を飛散するおそれがあります。**負傷する危険があります！** - カッティングアタッチメントや他の器物（駐車中の車両、窓等）を損傷させることもあります。

作業が困難な、繁茂した場所での作業時は特に注意してください。

背の高い植え込み、植え込みの下側、生垣を刈払うときは、動物を害を及ぼさないよう、カッティングツールを 15 cm 以上の高さで保持します。

機械から離れる場合は、必ずエンジンを切ってください。

カッティングアタッチメントは定期的かつ頻繁に点検し、明らかな変化に気付いたときはすぐに点検してください：

- エンジンを切り、機械を確実に保持し、カッティングアタッチメントが停止するまで待ちます。
- 状態と固定具合を点検し、亀裂の有無を確認します。
- ダイヤモンド研削チエンが鋭利な状態か確認します。
- 損傷しているか、切れ味が鈍くなったカッティングアタッチメントは、すぐに交換してください。小さな細かいひびが見られる場合も同様です。

カッティングアタッチメントの取り付け部から定期的に草木の切れ端を取り除きます。カッティングアタッチメントとデフレクターに蓄積した異物は、取り除いてください。

ケガの危険を低減するために、エンジンを停止させてから Cutting アタッチメントを交換してください。



作業中はギアボックスが高温になります。絶対にギアボックスに触れないでください。**火傷をする危険があります！**

回転する金属製 Cutting アタッチメントが岩や他の硬い物体に当たると、火花が発生し、可燃物が引火する可能性があります。特に乾燥した高温の気候下では、枯れた植物や茂みも引火します。火災の危険がある場合、可燃物、枯れた植物、茂みの付近で金属製 Cutting アタッチメントを使用しないでください。火災が生じる危険性の最新情報に関して、必ず管轄森林管理事務所にお問い合わせください。

2.8 草刈ヘッドを使用する場合

取扱説明書に記載されている追加部品を装着して Cutting アタッチメントデフレクターを拡張します。

Cutting ラインが承認されている長さ制限されるよう、ブレードが適切に取り付けられたデフレクターだけを使用してください。

手動調整式草刈ヘッドでは、必ずエンジンを切ってから Cutting ラインを調整してください。**負傷する危険があります！**

長すぎる Cutting ラインを使用すると、エンジン回転数が低下します。常にクラッチが滑ると、例えばアイドリング時の Cutting アタッチメントの回転によって重要部品(クラッチ、プラスチックハウジング部品等)が過熱したり、損傷したりします。**負傷する危険があります！**

2.9 金属製 Cutting アタッチメントを使用する場合

STIHL 社では、STIHL 純正の金属製 Cutting アタッチメントの使用をお勧めしています。そうした純正品は、機械とお客様の要件に対して最適化されています。

金属製 Cutting アタッチメントは超高速で回転し、発生する力がアタッチメントと切断物に加わります。

金属製 Cutting アタッチメントは、規定に従って定期的に目立てしてください。

均一に目立てされていない金属製 Cutting アタッチメントはアンバランスになり、機械に極端に大きな負荷がかかることがあります。**損傷する危険があります！**

切れ味の悪い刃先や目立てが不適切な刃先は Cutting アタッチメントの負荷を高め、部品の

亀裂や破損によって**負傷する危険**を増大させることがあります。

硬い障害物(石、岩、金属片等)に接触した後は、毎回、金属製 Cutting アタッチメントに損傷(亀裂や変形等)が生じていないか点検してください。**負傷する危険を低減するために、バリや他の目に見える堆積物は取り除いてください。**それらは、作業中に剥がれて高速で飛散することがあります。

損傷や亀裂が生じた Cutting アタッチメントを引き続き使用したり、溶接、矯正、形状変更による修理を試みたりしないでください(アンバランスな状態が生じます)。

破片が高速で飛散して作業中や見物人に当たるとおそれがあります。**重傷を負う危険があります！**

金属製 Cutting アタッチメント使用時に上記の危険を低減するために、直径が大きすぎる金属製 Cutting アタッチメントを使用しないでください。重すぎる Cutting アタッチメントも使用しないでください。高品質の素材で製造され、適切な形状(外形、厚み)でなければなりません。

ケガの危険を低減するために、STIHL 製以外の金属製 Cutting アタッチメントを使用するときは、STIHL 社が本パワーツールモデル用に承認した最大の金属製 Cutting アタッチメントと比較して重量、厚み、直径がそれを上回っている製品や、形状が異なっている製品は使用しないでください！

2.10 振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります(「白ろう病」)。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護(暖かい手袋)
- 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- 血行不良の特殊体質(症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く)。
- 低い外気温。
- ハンドルを握む力の強さ(握む力が強いと血行が低下します)。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状(指のしびれ等)が繰り返し発症する時は、医師による診断をお勧めします。上記のいずれかの症

状が現れたら(指が疼くなど)、医師にご相談ください。

2.11 整備と修理

定期的に本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業はスチール サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して、不明な方はスチール サービス店へお問い合わせください。

当社ではスチール純正交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

ケガの危険を回避するために、本機の保守、修理、または掃除を実行する前に、**エンジンを必ず切ってください**。- 例外：キャブレター及びアイドリング回転数の調整時は例外です。

スパークプラグターミナルまたはスパークプラグを外した状態でスターターを操作してエンジンを始動する場合は、スライドコントロール/ストップスイッチを **STOP** または **0** の位置にしてください。火花が飛んで**火災を起こす危険**があります。

火災の危険性を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィルター キャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプで、支障なく作動するスパークプラグだけを使用してください(「技術仕様」の項を参照)。

イグニッション ケーブルに異常がないこと(良好な絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。

マフラーに異常が無いことを確認してください。

火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。

高温のマフラーに触れて、**火傷**しないようにしてください。

振動の強さは、防振部品の状況に左右されます - 定期的に防振部品を点検してください。

2.12 デフレクター上の記号

デフレクターの**矢印**は、カッティングアタッチメントの適正な回転方向を示しています。

以下の記号の一部がデフレクターの外側に付いており、承認されたカッティングアタッチメントとデフレクターの組み合わせであることを示します。



デフレクターは草刈ヘッドと使用することができます。



デフレクターは草刈ヘッドと使用してはなりません。



デフレクターは草刈ブレードと使用することができます。



デフレクターは草刈ブレードと使用してはなりません。



デフレクターはブラッシュナイフと使用することができます。



デフレクターはブラッシュナイフと使用してはなりません。



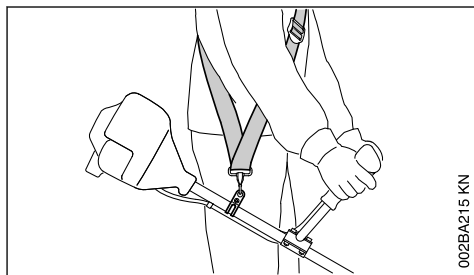
デフレクターはシュレッダーブレードと使用してはなりません。



デフレクターはサーキュラーソーブレードと使用してはなりません。

2.13 ハーネス/ストラップ

ハーネスは、供給範囲に含まれるかまたは特殊アクセサリとして供給されます。



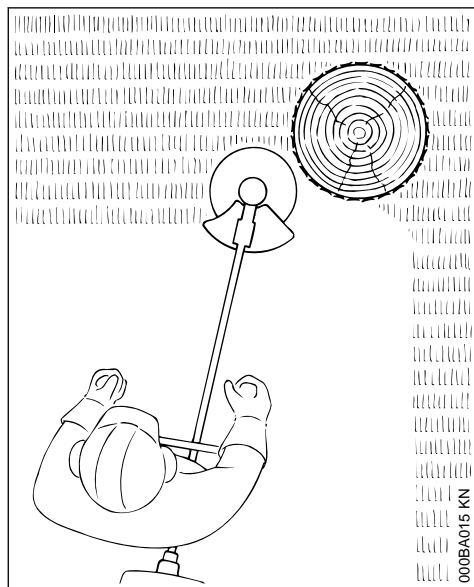
▶ 肩掛けベルトを使用します。

- ▶ エンジンをかけた状態では、本機を肩掛けベルトに吊り下げます。

草刈ブレードとブラシュナイフには、必ず肩掛けベルトを使用してください。

サーキュラソーは、必ずクイック リリース システム付きフルハーネスと組み合わせて、使用してください。

2.14 ナイロンラインを装備したカッティングヘッド



ナイロンラインにより、木やフェンス柵などの周囲の縁取りやトリミングをきれいに仕上げるためのソフトカットが可能です - 樹皮はほとんど傷付きません。

カッティングヘッドには取扱説明書が付属しています。取扱説明書の説明に従い、カッティングヘッドにナイロンラインを取り付けます。



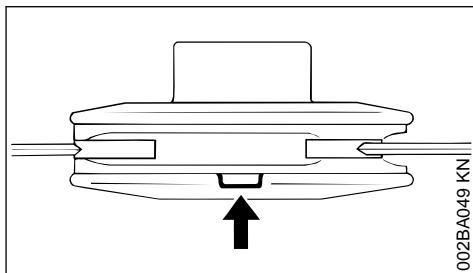
警告

絶対にナイロンラインの代わりに鉄製ワイヤーをしないでください。重度の傷害の危険があります。

2.15 ポリマー ブレード付きスチール ポリカット カッティングヘッド

牧草の茂った草木の刈り込み用(生垣、フェンス、木々などの障害物がない場合)

磨耗限度マークに注意してください！



ポリカット カッティングヘッドの磨耗限度マークの1つでも、ベース側に穴(矢印)があいた場合: カッティングヘッドの使用を中止してください。新品と交換してください。そうしないと、カッティングヘッドからの飛散物でケガする危険があります。

ポリカット カッティングヘッドの整備に関する注意事項を遵守してください。

ポリカットには、ポリマー ブレードの代わりにカッティングラインを装備することもできます。

カッティングヘッドには取扱説明書が付属しています。取扱説明書に従い、カッティングヘッドにポリマー ブレードまたはナイロンラインを取り付けます。



警告

ナイロン製カッティングラインの代わりにワイヤーを絶対に使用しないでください - ケガをする危険があります。

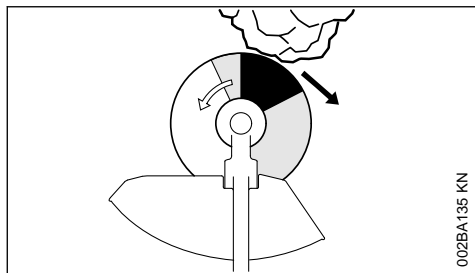
2.16 金属製カッティングアタッチメントの使用時の、キックバック(ブレードスラスト)の危険



警告

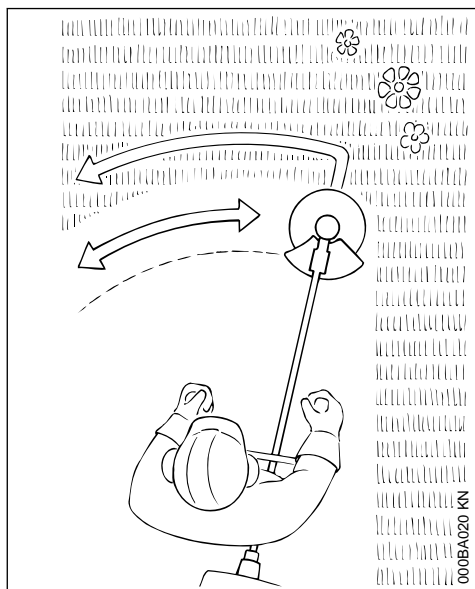


金属製カッティングアタッチメントを使用する場合、回転しているブレードが硬い障害物(木の根や枝、切り株、石など)に当たるとキックバックの危険があります。機械は、アタッチメントの回転方向と反対の、右または後方に跳ね返ります。



回転しているカッティングアタッチメントが黒い色の範囲で硬い障害物に当たった場合、キックバックの危険性が一層高まります。

2.17 草刈ブレード



芝や雑草のみに使用します - 鎌のように円弧状に刈払機を振ります。



警告

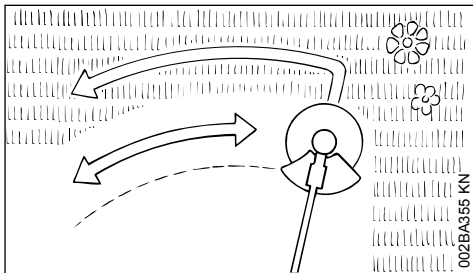
不適切に刈払機を使用すると、草刈ブレードを損傷することがあります - 破損部分でケガをする危険があります。

草刈ブレードの切れ味が明瞭に低下した場合は、規定通りに目立てしてください。

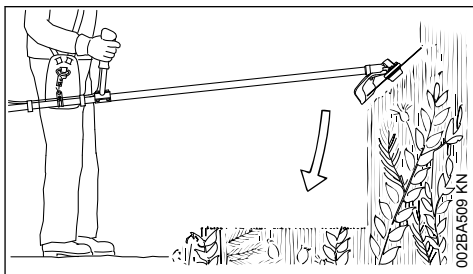
2.18 ブラシュナイフ

一面に生い茂った草、雑草と低木、幹の直径 2 cm 未満の幼木の切断に適しています - これより太

い幹を切断しないでください - 事故の危険があります。



芝刈及び幼木の間伐時には、地面と同じ位置で鎌のように刈払機を動かしてください (左右に動かす)。



雑草および低木を切る場合、シュレッダー効果を得るために、ブラシュナイフを草木の上から下ろしてください - この過程では、カッティングアタッチメントを必ず腰より下のレベルに維持してください。

この方法で切る場合、特別に注意を払ってください。カッティングアタッチメントを地面から離せば離すほど、飛散物が吹き飛んでケガをする危険性が高まります。

警告！ 不適切なブラシュナイフの使用により、ナイフが割れたり欠けたり破損することがあります - 破損部分でケガをする危険があります。

ケガの危険を低減するため、以下に注意してください：

- 石、岩、金属片などの固い障害物に当てないようにしてください。
- 直径 2 cm 以上の樹木や低木を切らないでください - このような作業には、サーキュラソーブレードを使用してください。
- ブラシュナイフに損傷がないか頻繁に定期的に点検してください。損傷したブラシュナイフは使用しないでください。
- 切れ味が低下した場合や定期的なメンテナンスで、ブラシュナイフを目立てし、必要な場

合はバリシングしてください (STIHL サービス店でされることを、お勧めします)。

2.19 サークュラソー：

幹の直径が 4 cm 以下の低木および樹木の切断に適しています。

切断の前に、エンジンをフルスロットまで加速して、均一に前進すると理想的な切断成果が得られます。

直径に適合したリミットストップだけを取り付けたサーキュラソーを使用してください。

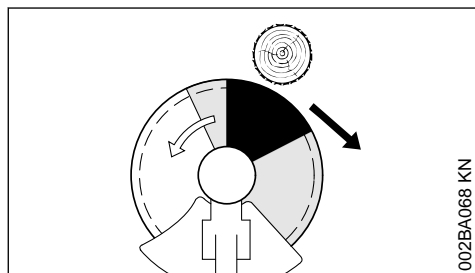


警告

ブレード損傷の危険を低減するため、石や地面に当たらないようにしてください。ブレードを適宜目立てしてください - 切れ味の悪い刃は、ブレードに亀裂や損傷を与えたり、ケガの危険があります。

伐倒作業時には、隣で作業する人と、最低でも木の高さ 2 本分の間隔をおいてください。

2.19.1 キックバックの危険



キックバックの危険は、ブレードの黒い色の範囲で最大となります：サーキュラソーブレードのこの範囲では切断しないでください。

ブレードの薄い影で表示された範囲を使用した場合も、キックバックの危険があります：ブレードのこれらの範囲は、熟練して特別のトレーニングを受けた作業員以外、使用しないでください。

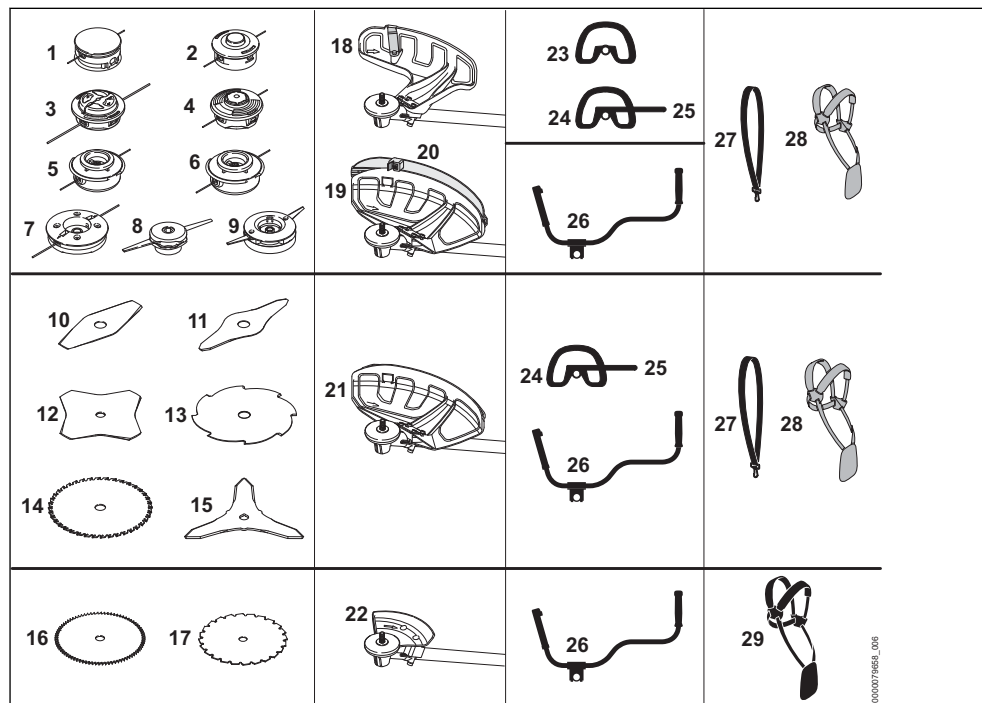
STIHL 社では、サーキュラソー ブレードの影表示されていない部分の使用を推奨します。切断の開始時には、必ずブレードのこの部分を使用してください。

3 組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス

カッティングツール

デフレクター、リミット ストップ

ハーネス



3.1 承認された組み合わせ

カッティングツールに応じて、表から適切な組み合わせを選択してください！

**警告**

安全上の理由から、表の各行に表示されているカッティングツール、デフレクター、ハンドルおよびハーネスの組み合わせだけを使用してください。これ以外の組み合わせは許可されていません – 事故の危険があります！

3.2 カッティングツール

3.2.1 草刈ヘッド

- 1 STIHL SuperCut 20-2
- 2 STIHL AutoCut 25-2 / AutoCut 27-2
- 3 STIHL AutoCut C 26-2

- 4 STIHL AutoCut 36-2
- 5 STIHL TrimCut 31-2
- 6 STIHL TrimCut 32-2¹⁾
- 7 STIHL DuroCut 20-2
- 8 STIHL PolyCut 18-2
- 9 STIHL PolyCut 28-2

3.2.2 金属製カッティングツール

- 10 草刈ブレード 230-2
(直径 230 mm)
- 11 草刈ブレード 260-2
(直径 260 mm)
- 12 草刈ブレード 230-4
(直径 230 mm)

¹⁾ FS 250、250 R には使用不可

- 13 草刈ブレード 230-8
(直径 230 mm)
- 14 草刈ブレード 250-40 スペシャル
(直径 250 mm)
- 15 ブラッシュナイフ 250-3
(直径 250 mm)
- 16 サーキュラソーブレード 200 尖り歯
(直径 200 mm)
- 17 サーキュラソーブレード 200-22 チゼル歯
(4112)、サーキュラソーブレード 200-22 HP
チゼル歯 (4001)

**警告**

非金属製草刈ブレード、ブラッシュナイフおよびサーキュラソーブレードは承認されていません。

3.3 デフレクター、リミットストップ

- 18 草刈ヘッド用デフレクター
- 19 デフレクター (以下の品目付き)
- 20 草刈ヘッド用スカートおよびナイフ
- 21 デフレクター、金属製カッティングツール用スカートおよびナイフなし、ポジション 9~14
- 22 サーキュラソーブレード用リミットストップ

3.4 ハンドル

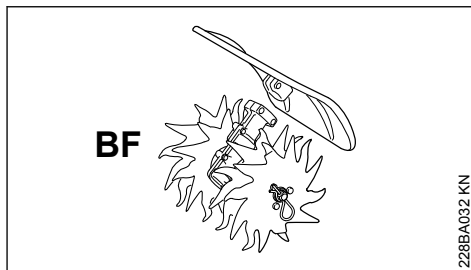
- 23 ループハンドル
- 24 ループハンドル (以下の品目付き)
- 25 スターラップ (バリアバー)
- 26 バイクハンドル

3.5 ハーネス

- 27 肩掛けベルトを使用する必要があります。
- 28 フルハーネスを使用することができます。
- 29 フルハーネスを使用する必要があります。

4 承認されたパワーツール アタッチメント

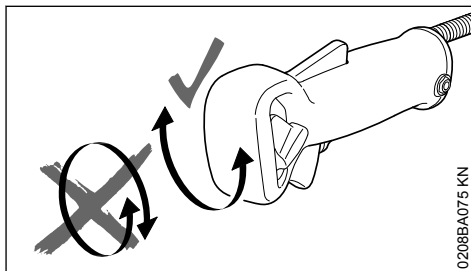
下記の STIHL アタッチメントは、この基本パワーツールに取り付けることができます：



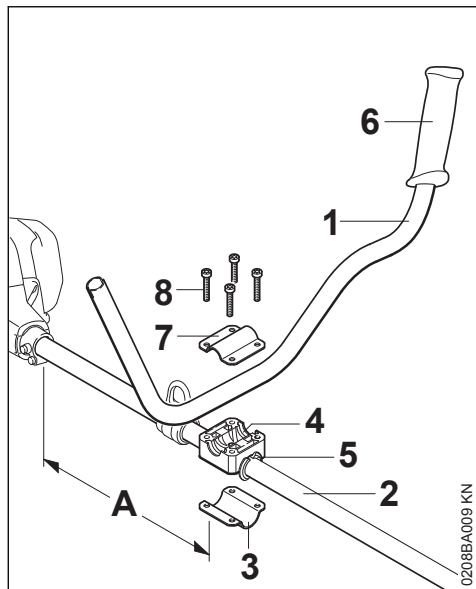
交換用アタッチメント 用途
BF カルチベータ

5 バイク ハンドルの取り付け

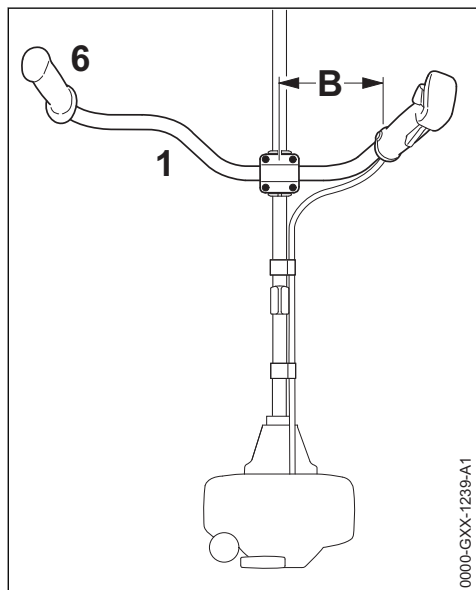
5.1 ハンドルバーの取り付け



コントロールハンドルは、梱包を開いてからハンドルバーに取り付けるまでの間に回転させないでください。「スロットルケーブルの調整」の章も参照してください。



- ▶ エンジンハウジングの前方、約 40 cm(15 in) のシャフト (2) 上の位置 (A) にハンドルバー (1) を固定します
- ▶ クランプ (3) とハンドルサポート (4) をドライブチェーン (2) のスリーブ (5) に位置決めします

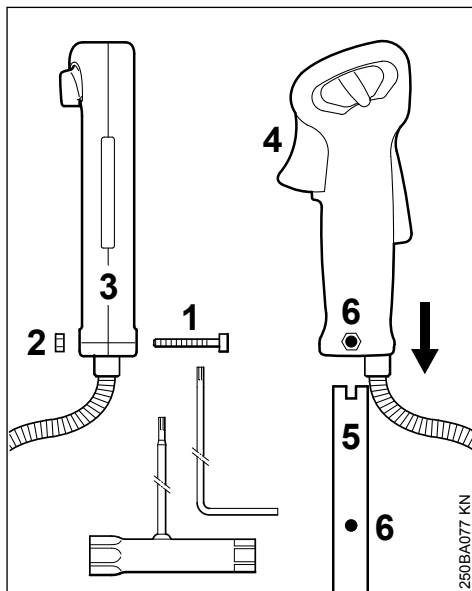


- ▶ 距離 (B) が 15 cm (6 in) 以内になるようにして、ハンドルバー (1) をハンドルバーサポート

に位置決めします。その際は、ラバーハンドル (6) の位置を (エンジンからハンドルバーに向かって) 左側にしてください

- ▶ クランプ (7) をハンドルバーサポートに位置決めします。
- ▶ スクリュー (8) を各部品の穴に通し、クランプ (3) に止まるまでねじ込みます。
- ▶ ハンドルバーの位置を合わせます。
- ▶ スクリューを締め付けます。

5.2 コントロールハンドルの取り付け

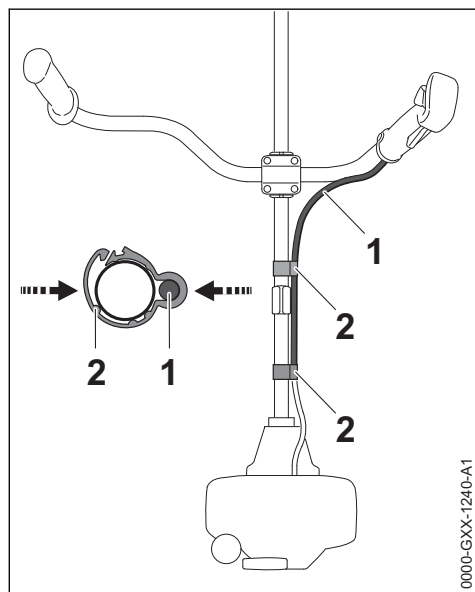


- ▶ ボルト (1) を取り外します - ナット (2) はコントロールハンドル (3) 内に残ります。
- ▶ スロットトリガー (4) をギアボックスに向けてコントロールハンドルをハンドルバー (5) の端に押し込み、穴 (6) の位置を合わせます。
- ▶ スクリュー (1) を差し込み、締め付けます。

5.3 スロットルケーブルの固定

注記

折れ曲がったり、取り付け半径が小さくなったりしないよう注意してスロットルケーブルを取り付けます - スロットルトリガーがスムーズに動くことを確認してください。



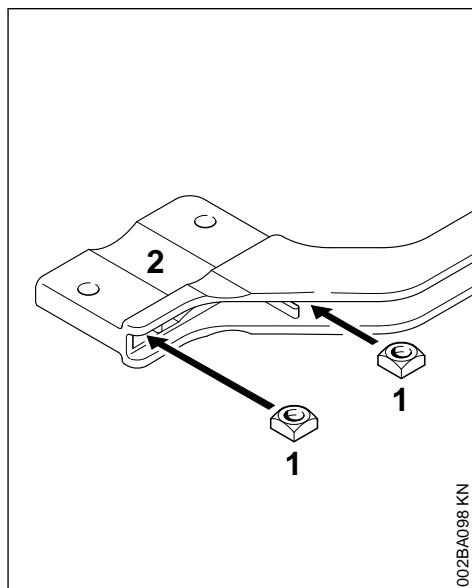
- ▶ スロットルケーブルリテーナー (2) とスロットルケーブル (1) をシャフトに固定します。
- ▶ スロットルケーブルリテーナー (2) をすばめます。スロットルケーブルリテーナー (2) が定位置にはまると、カチッという音がします。

5.4 スロットルケーブルの調整

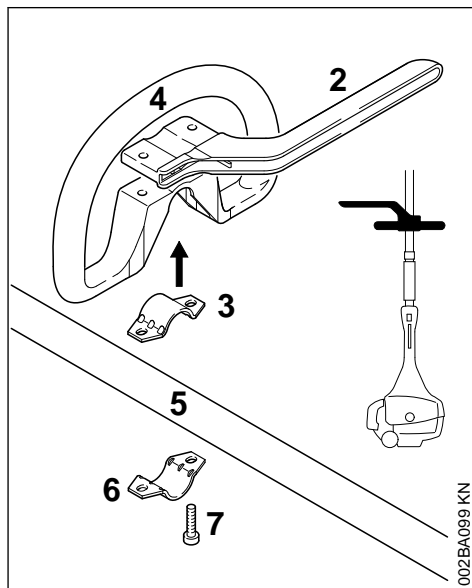
- ▶ スロットルケーブルの調整を点検します - 「スロットルケーブルの調整」の章を参照してください。

6 ループ ハンドルの取り付け

6.1 バリabar付きループハンドルの取り付け

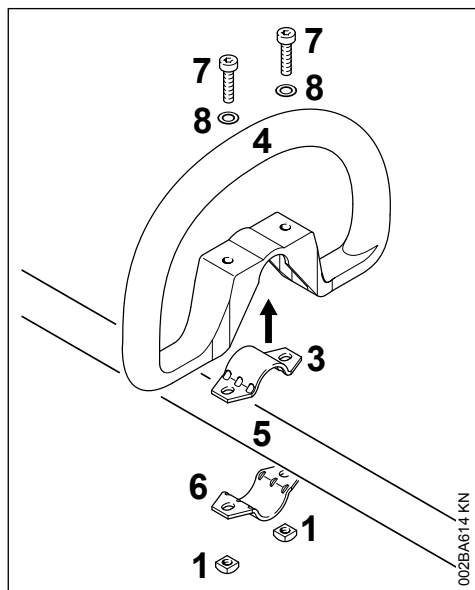


- ▶ 四角ナット (1) をバリabar (2) に、穴が並ぶように取り付けます。



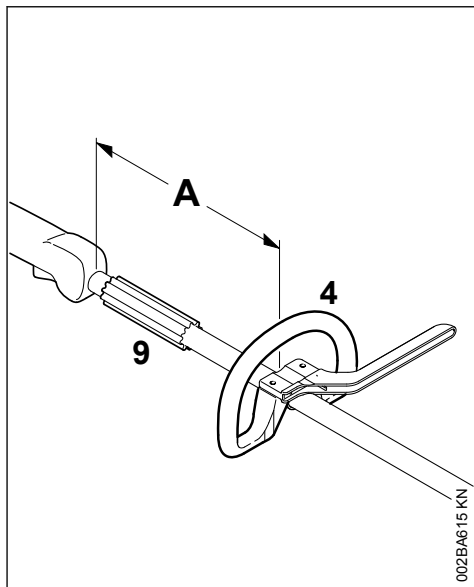
- ▶ クランプ (3) をループ ハンドル (4) に取り付け、一緒にドライブ チューブ (5) に当てます。
- ▶ クランプ (6) をドライブ チューブに配置します。
- ▶ バリヤ ー (2) を、図のように所定の位置に配置します。
- ▶ 穴を合わせます。
- ▶ スクリュー (7) を穴に差し込みます - バリヤ ー (2) に、突き当たるまでねじ込みます。
- ▶ 「ループ ハンドルの固定」の章を参照してください。

6.2 バリヤ ーなしループ ハンドルの取り付け



- ▶ クランプ (3) をループ ハンドル (4) に取り付け、一緒にドライブ チューブ (5) に当てます。
- ▶ クランプ (6) をドライブ チューブに配置します。
- ▶ 穴を合わせます。
- ▶ ワッシャー (8) をスクリュー (7) に装着し、スクリューを穴に差し込みます。四角ナット (1) を取り付け、止まるまで締め付けます。
- ▶ 「ループ ハンドルの固定」の章を参照してください。

6.3 ループ ハンドルの固定



作業者の身長と手の長さ、および用途に応じて距離 (A) を変更して、ループ ハンドルを調整できます。

推奨: 距離 (A): 約 20 cm (8 インチ)

- ▶ ハンドルを必要な位置に滑らせます。
- ▶ ループハンドル (4) の位置を合わせます
- ▶ ループ ハンドルがドライブ チューブ上でそれ以上回転しないように、ネジを締め付けます。バリヤ ーなしの場合 - 必要があればナットをロックしてください。

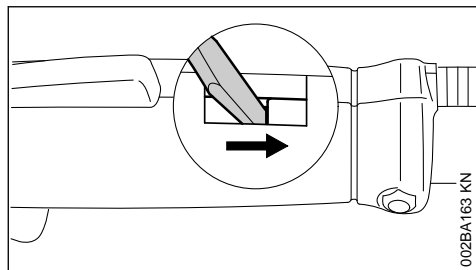
スリーブ (9) (装着されていない機種があります) は、必ずループ ハンドルとコントロール ハンドルの間に取り付けます。

7 スロットルケーブルの調整

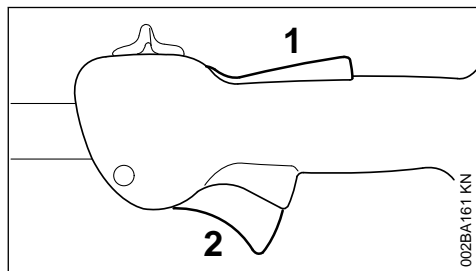
7.1 ループハンドル

始動スロットル、アイドリング、フルスロットルの各位置で本機が正常に作動するためには、スロットルケーブルを適切に調整する必要があります。

スロットルケーブルの調整は、必ず本機を完全かつ適切に組み立てた後に行ってください。



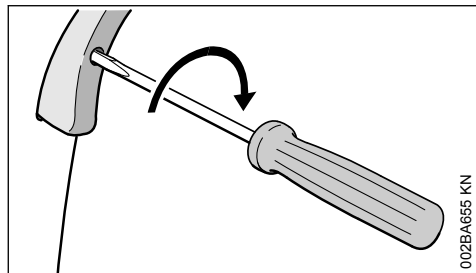
- ▶ 適切な工具を使用し、スライドをスロットの端へ押します (図を参照)。



- ▶ トリガーロックアウト (1) を押し、スロットルトリガー (2) を握ります (フルスロットル) - これによりスロットルケーブルが適切に設定されます。

7.2 バイクハンドル

本機の組み立て後または長期間の運転後に、スロットルケーブルを再調整する必要がある場合があります。

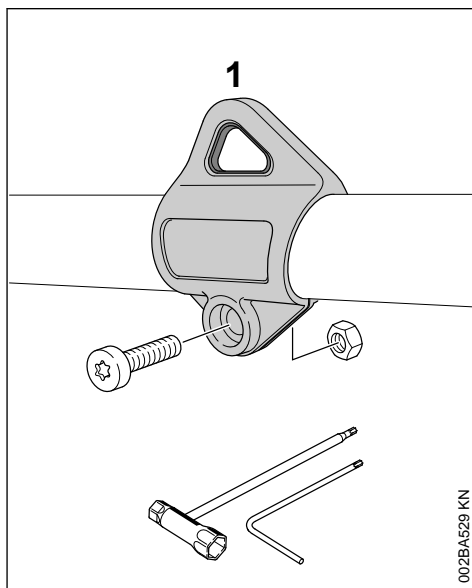


スロットルケーブルの調整は、必ず本機を完全かつ適切に組み立てた後に行ってください。

- ▶ スロットルトリガーをフルスロットル位置に設定します。
- ▶ スロットルトリガーのスクリューを矢印の方向に慎重に回転させ、最初に手ごたえが感じられた位置で止めます。さらに同一方向に半回転させます。

8 吊り下げ用リングの取り付け

8.1 ポリマーバージョン

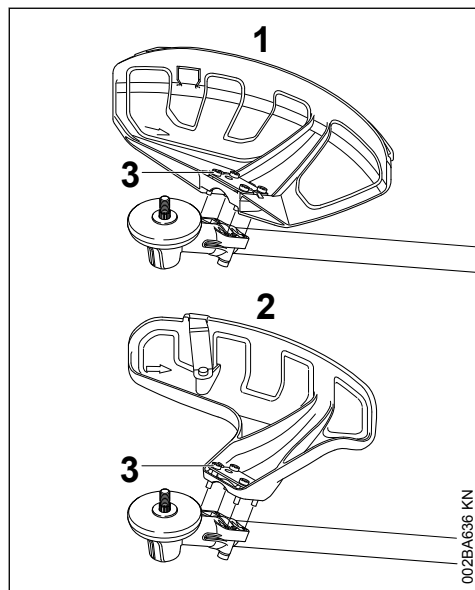


吊り下げ用リングの位置については、「主要構成部品」を参照してください。

- ▶ 吊り下げ用リング (1) をドライブチューブに押し込みます。
- ▶ M5 ナットを吊り下げ用リングの外部六角形に挿入します。
- ▶ M5x14 スクリューを取り付けます。
- ▶ 吊り下げ用リングの位置を調整します。
- ▶ スクリューでしっかりと締め付けます。

9 デフレクターの取り付け

9.1 デフレクターの取り付け



1 カuttingアタッチメント用デフレクター

2 草刈ヘッド用デフレクター

デフレクター (1 および 2) は両方とも、ギアボックスに同様に取り付けます。

- ▶ デフレクターをギアボックスフランジ上に置きます。
- ▶ スクリュー (3) を差し込み、しっかり締め付けます。

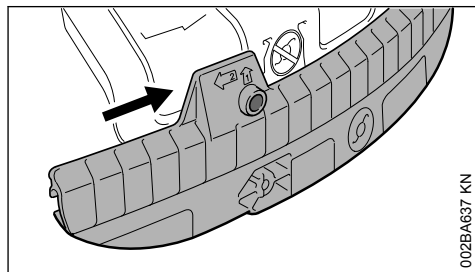
9.2 スカートとブレードの取り付け



警告

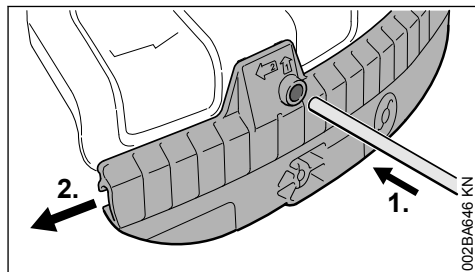
飛散物やカuttingアタッチメントとの接触によって負傷する危険があります。草刈ヘッドを使用するときは、必ずスカートとブレードをデフレクター (1) に取り付けてください。

9.3 スカートの取り付け



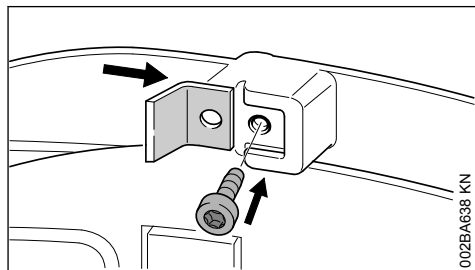
- ▶ スカートの下側ガイドスロットをスライドさせ、デフレクターにはめ込みます。

9.4 スカートの取り外し



- ▶ スカートの穴にストップピンを挿入し、そのピンを使用してスカートを左側に押します。
- ▶ デフレクターからスカートを引き抜きます。

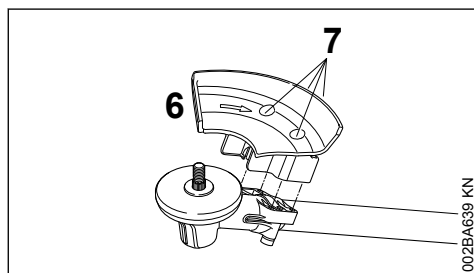
9.5 ブレードの取り付け



- ▶ ライン制限ブレードをスライドさせ、スカート上のガイドに取り付けます。

- ▶ スクリューを差し込み、しっかりと締め付けます。

9.6 リミットストップの取付け



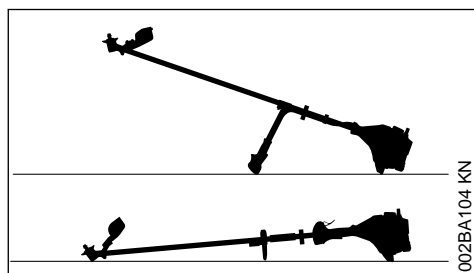
警告

飛散物やカutting アタッチメントとの接触によって負傷する危険があります。サーキュラーソーブレードを使用するときは、必ずリミットストップ (6) を取付けてください。

- ▶ リミットストップ (6) をギアボックスフランジに位置決めします。
- ▶ スクリュー (7) を差し込み、しっかりと締め付けます。

10 カutting アタッチメントの取付け

10.1 パワーツールを地面に置く



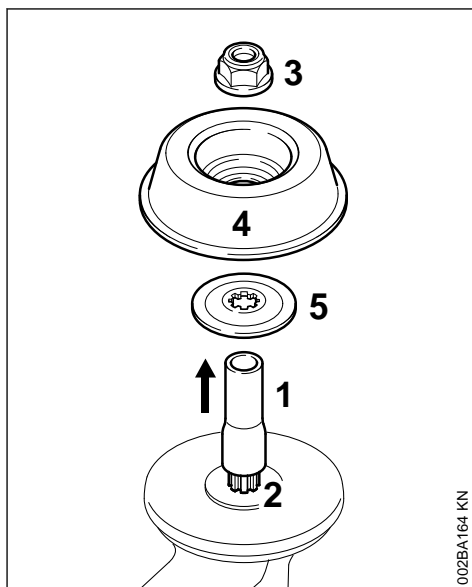
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ カutting アタッチメント装着部が上向きになるように、パワーツールを置きます。

10.2 カutting アタッチメント取付け用部品

付属する取付け用部品は、新しい機械に付属するカutting アタッチメントによって異なります。

10.2.1 取付け用部品が同梱されている機械

草刈ヘッドと金属製カutting アタッチメントを取り付けることができます。



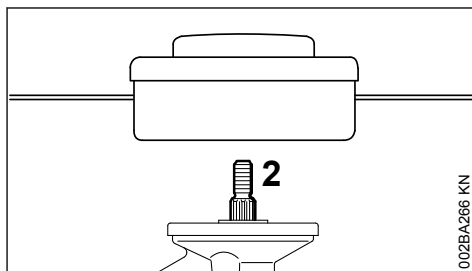
カutting アタッチメントによっては、ナット (3)、ライダープレート (4) およびスラストワッシャー (5) を使用する必要があります。

それらの部品は機械と共に提供されるキットに含まれており、特殊アクセサリとしても入手することができます。

10.2.2 運搬ロックの取り外し

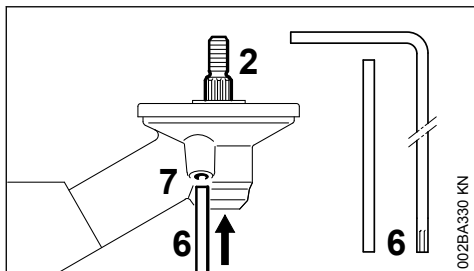
- ▶ ホース (1) をシャフト (2) から抜き取ります。

10.2.3 取付け用部品が同梱されていない機械



シャフト (2) に直接取り付ける草刈ヘッドのみを使用できます。

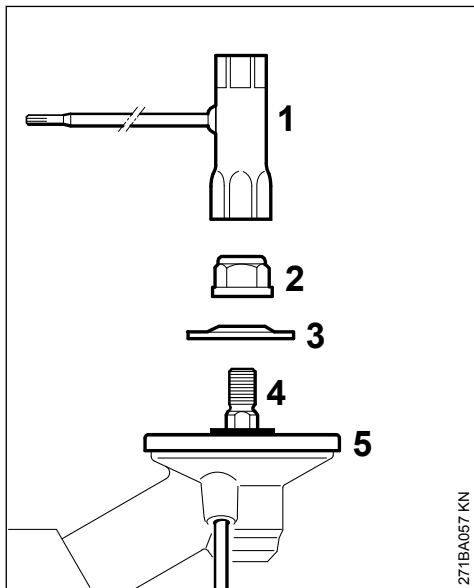
10.3 シャフトの固定



出力シャフト (2) をストップピン (6) またはドライバー (6) で固定してから、カuttingアタッチメントの着脱を行う必要があります。それらの部品は、機械に標準装備されているか、特殊アクセサリとして入手することができます。

- ▶ ストップピン (6) またはドライバー (6) をギアボックスの穴 (7) に止まるまで差し込みます - その後、わずかに押します。
- ▶ ストップピンが所定の位置にはまり、シャフトが固定されるまで、シャフト、ナットまたはカuttingアタッチメントを回します。

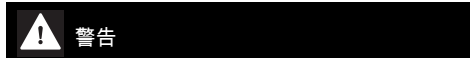
10.4 取り付け用部品の取り外し



- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ コンビネーションレンチ (1) を使用してナット (2) (左ねじ) を時計回りに回転させて緩め、取り外します。

- ▶ スラストワッシャー (3) をシャフト (4) から外します。スラストプレート (5) は外さないでください。

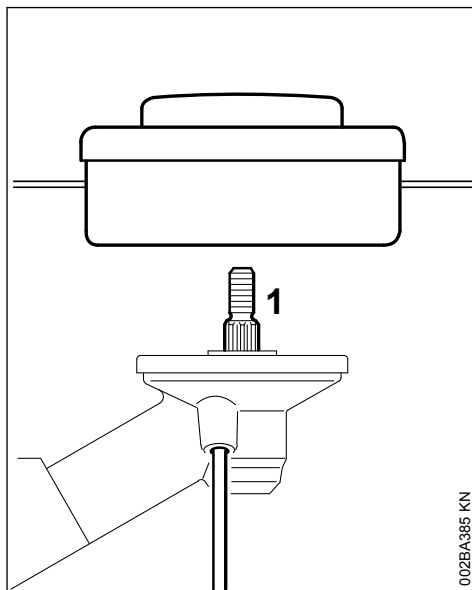
10.5 カuttingアタッチメントの取り付け



カuttingアタッチメントと適合するデフレクターを使用してください - 「デフレクターの取り付け」を参照。

10.6 スクリュー取り付け部付き草刈ヘッドの取り付け

草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください。



- ▶ スラストプレートを取り付けます
- ▶ 草刈ヘッドをシャフト (1) 上で止まるまで反時計回りにまわします
- ▶ シャフトを固定します
- ▶ 草刈ヘッドを締め付けます

注記

シャフトを固定するために使用した工具を取り外します。

10.7 草刈ヘッドの取り外し

- ▶ シャフトを固定します
- ▶ 草刈ヘッドを時計回りにまわします

10.8 金属製カuttingアタッチメントの取付け

金属製カuttingアタッチメントのパンフレットとパッケージを安全な場所に保管してください。



警告

保護手袋を着用し、鋭利な刃先に直接触れる危険を低減します。

金属製のカuttingアタッチメントを1つのみ取り付けてください。

カuttingアタッチメントの回転方向の確認

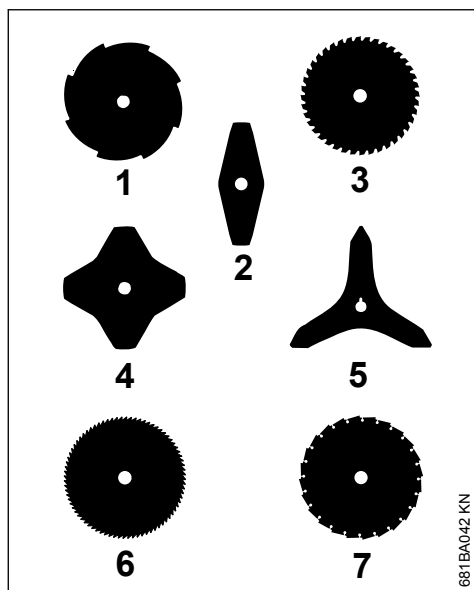


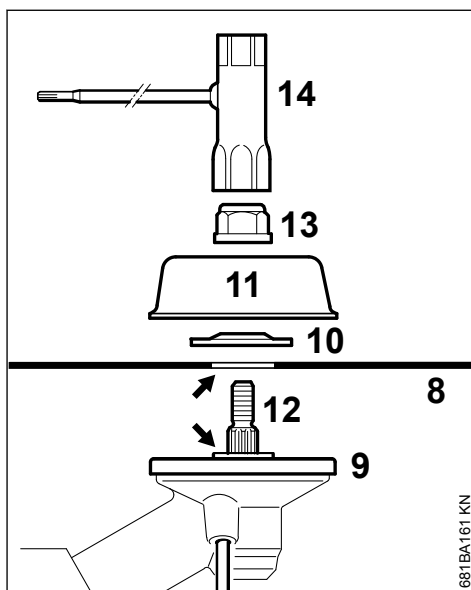
図2、4、5のカuttingアタッチメントは、いずれの方向を向いていてもかまいません - これらのカuttingアタッチメントは、向きを定期的に変えて、片側だけが磨耗しないようにする必要があります。

カuttingアタッチメント1、3、6および7の刃先は、時計方向に向いている必要があります。



警告

回転方向は、デフレクターの内側に、矢印で示されています。



- ▶ カuttingアタッチメント (8) をスラストプレート (9) 上に置きます。



警告

カラー (矢印) がカuttingアタッチメントの取り付け穴にはまっていなければなりません。

カuttingアタッチメントの固定

- ▶ スラストワッシャー (10) を取り付けます。凸側は上方を向いている必要があります。
- ▶ ライダープレート (11) を取り付けます。
- ▶ シャフト (12) を固定します。
- ▶ コンビネーションレンチ (14) を使用して、取り付けナット (13) を出力シャフトに反時計方向にねじ込み、しっかり締めつけます。



警告

取り付けナットが緩くなりすぎたら、新しいナットに交換してください。

注記

シャフト固定用ツールを抜き取ります。

10.9 金属製カッティングアタッチメントの取り外し



警告

保護手袋を着用し、鋭利な刃先に直接触れる危険を低減します。

- ▶ シャフトを固定します
- ▶ ナットを時計回りに回して取り外します。
- ▶ カッティングアタッチメントおよびその取り付け部品をギアボックスから外します。ただし、スラストプレート(9)は外さないでください。

11 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。



警告

燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

11.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最長化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

11.2 燃料の混合

注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

11.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の高品質ガソリンだけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン(E27)を使用して本来の性能を発揮します。

11.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

11.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください (オイル 1 に対してガソリン 50)。

11.2.4 例

| ガソリン量 | STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50 |
|-------|---------------------------|
| リットル | リットル (ml) |
| 1 | 0.02 (20) |
| 5 | 0.10 (100) |
| 10 | 0.20 (200) |
| 15 | 0.30 (300) |
| 20 | 0.40 (400) |
| 25 | 0.50 (500) |

- ▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

11.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

混合燃料は時の経過に伴って劣化します - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短期間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

- ▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。



警告

携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

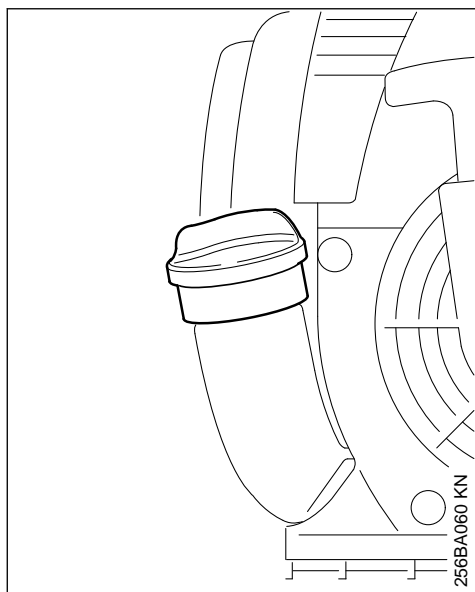
- ▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

12 給油



12.1 準備



- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐため、タンクキャップとその周りをきれいにしてください。
- ▶ タンクキャップが上を向くように本機を置いてください。

12.2 燃料の補充

給油の際には燃料をこぼしたり、あふれさせないでください。当社では給油用に STIHL 給油システム(特殊アクセサリ)の使用をお勧めします。

- ▶ タンクキャップを開けます。
- ▶ 燃料を補充します。
- ▶ タンクキャップを閉じます。



警告

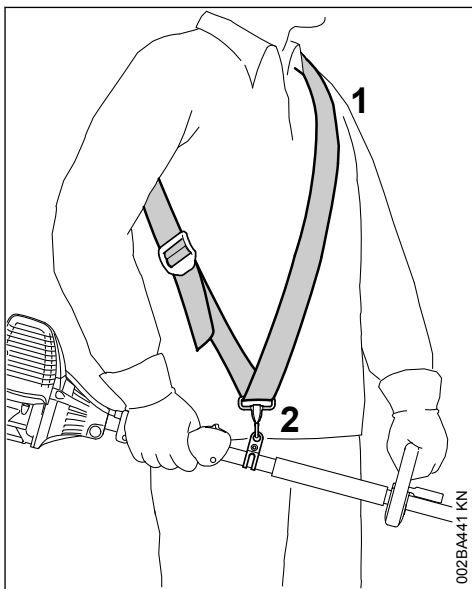
給油の後は、タンクキャップをできる限りしっかりと手で閉めてください。

13 ハーネスの取付け

市場によって、ハーネス/肩掛けベルトのタイプとスタイルが異なります。

肩掛けベルトの使用法は、「各機種に組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドル及びハーネス」の章を参照してください。

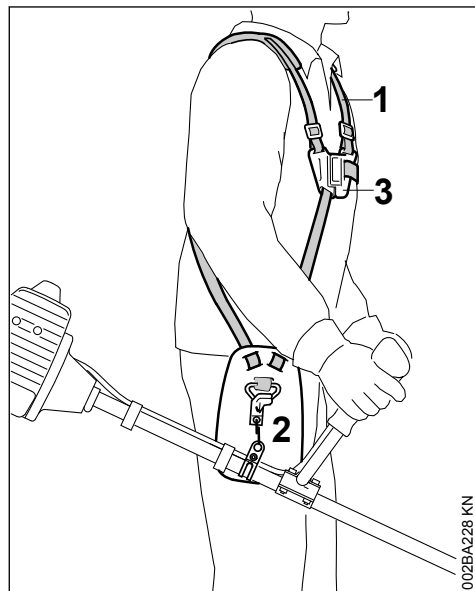
13.1 肩掛けベルト



- ▶ 肩掛けベルト (1) を肩に掛けます。

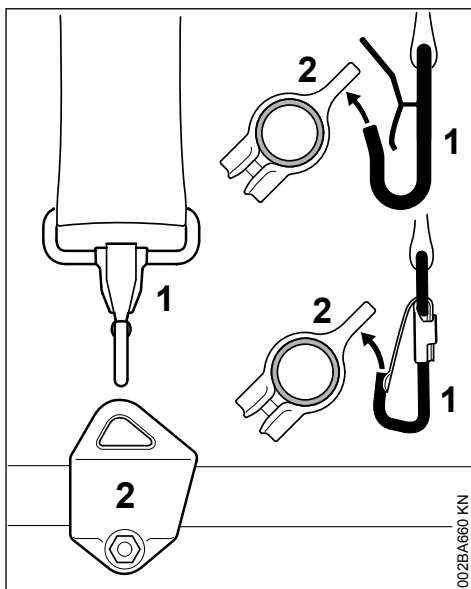
- ▶ ベルトの長さを調整して、カラビナ (2) が、右腰から手幅分下の位置にくるようセットします。
- ▶ 機械のバランスを取ります - 「機械のバランスの取り方」を参照してください。

13.2 フル ハーネス



- ▶ ハーネス (1) を着用し、ロッキングプレート (3) を閉じます。
- ▶ ベルトの長さを調整します - 機械を取り付けた状態で、カラビナ (2) が作業者の右腰下で片手くらいの幅になるようにする必要があります。
- ▶ 機械のバランスを取ります - 「機械のバランスの取り方」を参照してください。

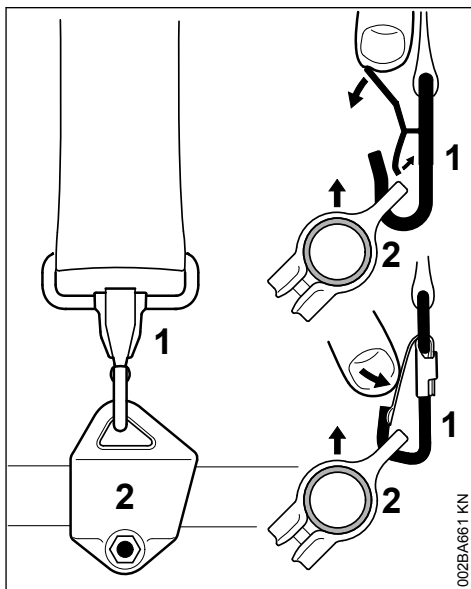
13.3 機械のハーネスへの取り付け



ハーネスとカラビナ (スプリングフック) のタイプとスタイルは、市場によって異なります。

- ▶ カラビナ (1) をドライブチューブの吊り下げ用リング (2) に掛けます。

13.4 機械のハーネスからの取り外し



- ▶ カラбина (1) のバーを押して、吊り下げ用リング (2) をカラбинаから引き抜きます。

13.5 緊急時の機械の取り外し



警告

差し迫った危険の場合、機械を素早く取り外す必要があります。非常時に備えて、機械を外して地面に降ろす練習をしてください。この練習中に機械を地面に投げ下ろして損傷しないようにしてください。

"機械のハーネスからの取り外し"の説明に従いパワーツールをカラбинаから取り外す練習をしてください。

肩掛けベルトを使用している場合: ストラップを肩から外す練習をしてください。

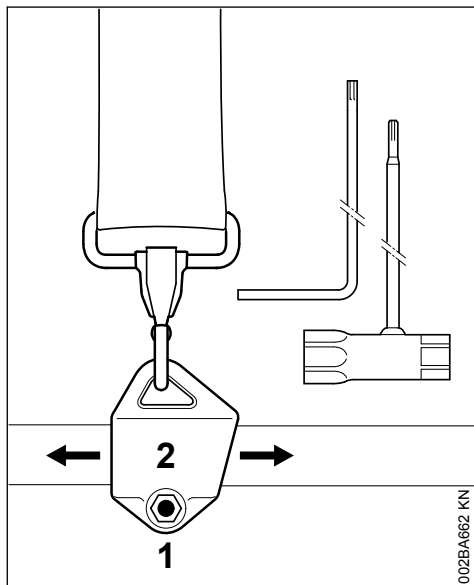
フルハーネスを使用している場合: ロッキングプレートをすばやく開き、肩からハーネスストラップを外す練習をしてください。

14 ユニットのバランス

14.1 刈払機のバランス

使用するカッティングアタッチメントにより、機械のバランスの取り方が異なります。

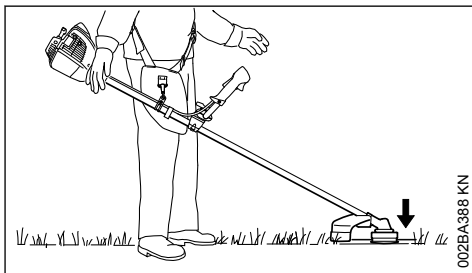
「浮動位置」で規定されている条件に合うまで下記の実手順を実行します：



- ▶ スクリュー (1) を緩めます。

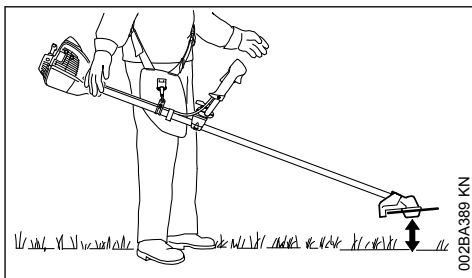
- ▶ 吊り下げ用リング (2) をドライブチューブに沿ってスライドさせます。
- ▶ スクリューをゆるく締めます。
- ▶ 機械を、余裕を持って吊り下げられるようにします。
- ▶ 位置を確認します。

バランスの取れた位置



草刈ヘッド、芝刈ブレードおよびブラシュナイフなどのカッティングツールが

- ▶ ちょうど地面に触れるようにします。



サーキュラソーブレード

- ▶ 地面から約 20 cm (8 in) 離れる程度が最適なバランスです。

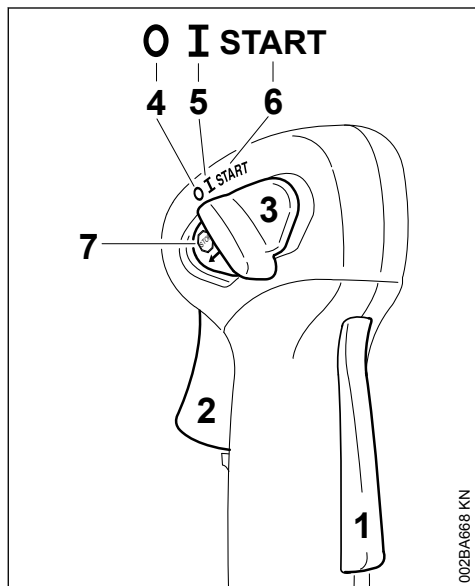
適切な浮動位置に設定できた後：

- ▶ 吊り下げ用リングのスクリューをしっかりと締め付けます。

15 エンジンの始動と停止

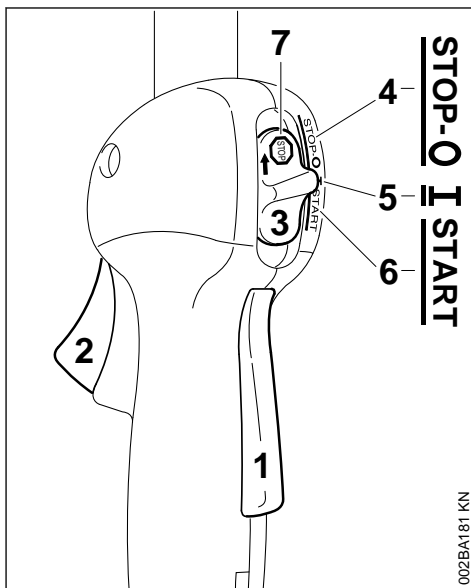
15.1 操作部

15.1.1 ハンドルバーのコントロールハンドル



- 1 スロットルトリガーロックアウト
- 2 スロットルトリガー
- 3 スライドコントロール

15.1.2 ドライブチューブのコントロールハンドル



- 1 スロットルトリガーロックアウト
- 2 スロットルトリガー
- 3 スライドコントロール

15.1.3 スライドコントロールの位置

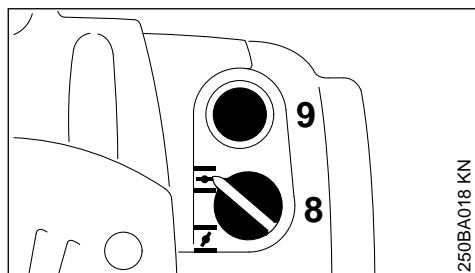
- 4 STOP-O - エンジン停止 - イグニッションがオフの状態
- 5 I - 通常運転の位置 - エンジン運転中または始動可能
- 6 START - イグニッションがオンの状態 - エンジンが始動可能

15.1.4 スライドコントロールの記号

- 7 ⊙ - 停止記号と矢印。エンジンを停止するには、スライドコントロールを停止記号 (⊙) 上の矢印方向に押し、STOP-O に合わせます。

15.2 始動

- ▶ トリガーロックアウトレバーを押し下げて、スロットルトリガーを強く握ります。
- ▶ その位置で保持します。
- ▶ スライドコントロールを **START** へ動かし、その位置で保持します。
- ▶ スロットルトリガー、スライドコントロール、トリガーロックアウトをこの順序で放します。これが**始動スロットル位置**です。

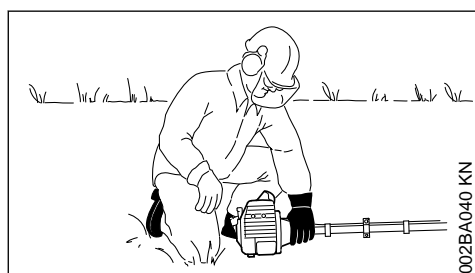
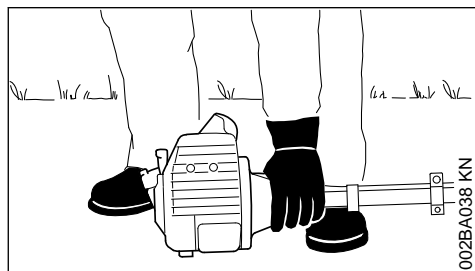


- ▶ チョークノブ (8) を次のようにセットします：

Ⅰ エンジンが冷えている場合
Ⅱ 暖機スタートの場合 - エンジンの始動後、暖まりきっていない場合もこの位置を使用します。

- ▶ 手動燃料ポンプ (9) を最低 5 回押してください - ポンプに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。

15.2.1 始動操作



- ▶ 機械を地面に置きます：エンジンサポートとデフレクターを地面にしっかりと当てます。
- ▶ 装着されている場合：運搬用ガードをカッティングアタッチメントから取り外します。

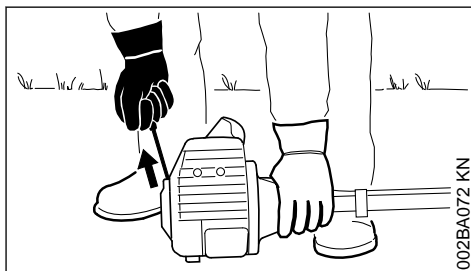
事故の発生を防ぐために、カッティングアタッチメントが地面あるいはその他の物体と接触していないことを確認します。

- ▶ 立つか、かがむか、ひざまずいて、安定した足場を確保します。
- ▶ 機械を左手で地面にしっかりと固定して、押し付けます - スロットルトリガーやロックアウト

レバー、スライドコントロールに触れないようにしてください。

注記

ドライブチューブに足を載せたりひざまずいたりしないでください。



- ▶ 右手でスターターグリップを握ります。
- ▶ スターターグリップをゆっくり引き、かみ合った感じがしたら、素早く勢い良くグリップを引っ張ります。

注記

スターターロープは最後まで引き出さないでください - **切れるおそれがあります。**

- ▶ スターターグリップを急に放さないでください。手を添えてハウジング内にゆっくりと戻すと、スターターロープは適切に巻き込まれます。
- ▶ 始動操作を続けます。

15.2.2 エンジンが初爆したら

- ▶ チョークノブを **Ⅲ** の位置に動かします。
- ▶ エンジンがかかるまで始動操作を続けます。

15.2.3 エンジンがかかったらすぐに

- ▶ スロットルトリガーを直ちに軽く押します。スライドコントロールが通常の運転位置 **Ⅰ** になります - エンジンがアイドリング回転になります。

警告

キャブレターが適正に調整されていることを確認します。エンジンのアイドリング回転時に、カッティングアタッチメントが回転しないようにしてください。

これで機械の使用準備が完了しました。

15.3 エンジンの停止

- ▶ スライドコントロールを停止記号 (⊖) 上の矢印方向に押し、**STOP-0** に合わせます。

15.4 外気温度が極めて低いとき

エンジンがかかったらすぐに：

- ▶ スロットルトリガーを軽く押し、**始動スロットル位置**から解放します。スライドコントロールが通常の運転位置Ⅰになります - エンジンがアイドリング回転になります。
- ▶ スロットルを少し開きます。
- ▶ エンジンをしばらく暖機運転します。

15.5 エンジンがかからない場合

15.5.1 チョークノブ

エンジンが初爆した直後にチョークノブを Ⅲ の位置に動かさないと、燃焼室内に過剰な燃料が吸い込まれます。

- ▶ チョークノブを Ⅲ の位置に動かします。
- ▶ **始動スロットル位置**を選択します。
- ▶ スターターロープを素早く引き、エンジンを始動します - 10 ~ 20 回引く必要が生じることがあります。

それでもエンジンがかからない場合

- ▶ スライドコントロールを停止記号 (⊘) 上の矢印方向に押し、**STOP-0** に合わせます。
- ▶ スパークプラグを取り外します - 「スパークプラグ」を参照してください。
- ▶ スパークプラグを乾かします。
- ▶ スロットルを全開にします。
- ▶ 燃焼室を換気するためにスターターを数回引っ張ります。
- ▶ スパークプラグを再び取り付けます - 「スパークプラグ」を参照してください。
- ▶ スライドコントロールを **START** 位置に動かします。
- ▶ チョークノブを Ⅲ の位置に合わせます - エンジンが冷えているときも同様です。
- ▶ エンジンを始動します。

15.5.2 スロットルケーブルの調整

- ▶ スロットルケーブルが適切に調整されているか点検します - 「スロットルケーブルの調整」の章を参照してください。

15.5.3 燃料タンクが完全に空になった場合

推奨事項：タンクが完全に空になる前のエンジンの運転状態にかかわりなく、次の手順を実行します。

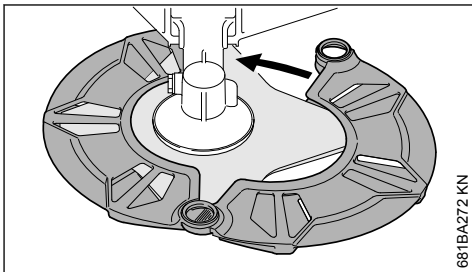
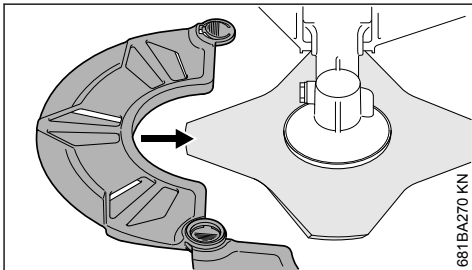
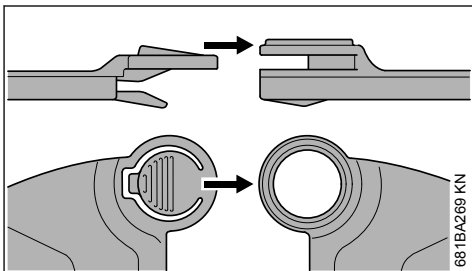
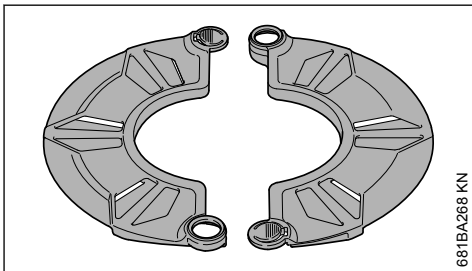
- ▶ 再給油したら、手動燃料ポンプに燃料が充填されている場合でも、燃料ポンプを最低 5 回押ししてください。
- ▶ チョークノブを Ⅰ の位置に回します。
- ▶ 「始動」のセクションに進み、冷えているエンジンに関する説明に従ってエンジンを再始動します。

16 機械の運搬

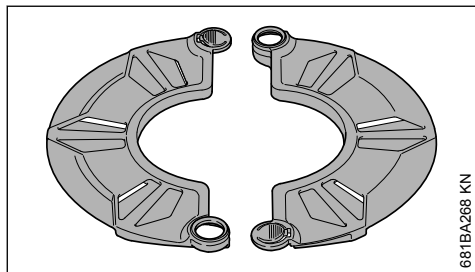
16.1 運搬用ガードの使用

機械に同梱の金属製カッティングアタッチメントによって、使用する運搬用ガードの種類があります。運搬用ガードは特別な付属品として使用できます。

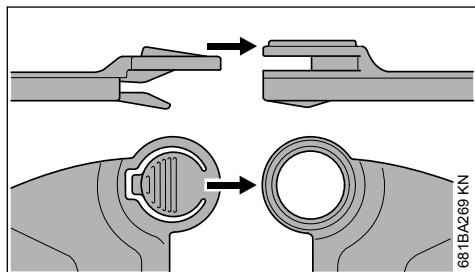
16.2 230 mm 草刈ブレード



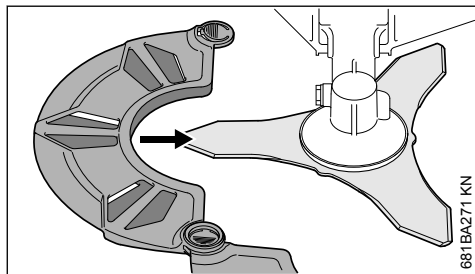
16.3 250 mm ブラシュナイフ



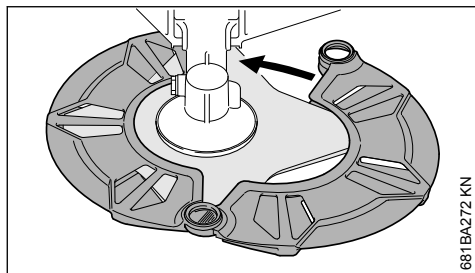
681BA268 KN



681BA269 KN

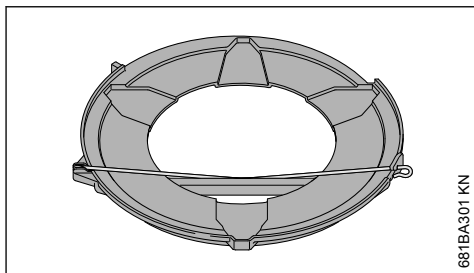


681BA271 KN

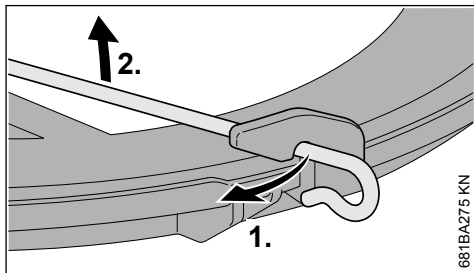


681BA272 KN

16.4 最大 260 mm の草刈ブレード

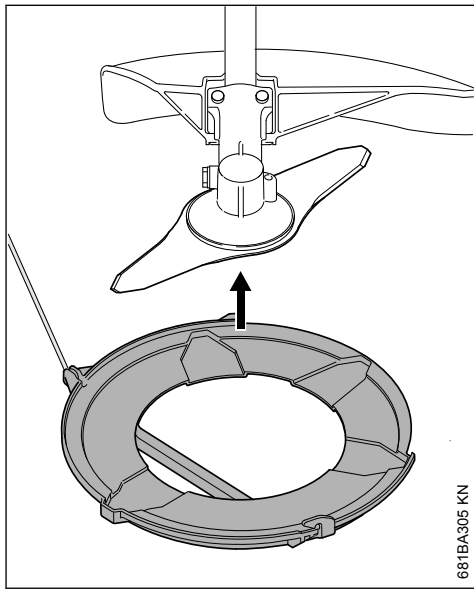


681BA301 KN



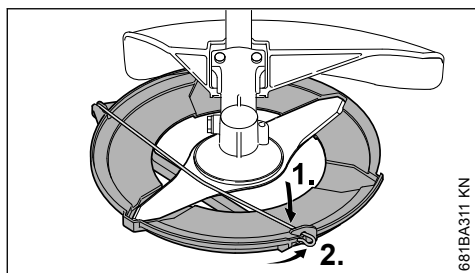
681BA275 KN

- ▶ 運搬用ガードからワイヤーロッドを外します。
- ▶ ワイヤーロッドを外側に回します。



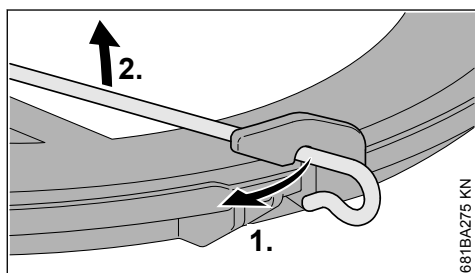
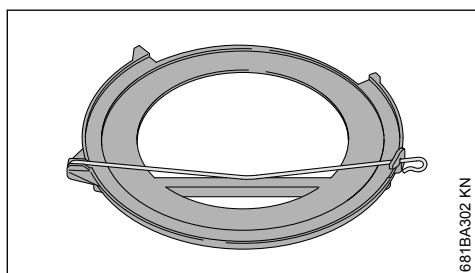
681BA305 KN

- ▶ 運搬用ガードを、下側からカッティングアタッチメントに取り付けます。

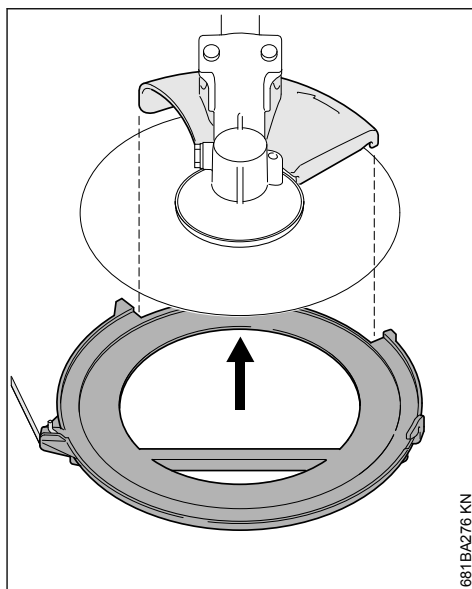


- ▶ ワイヤーロッドを所定の位置に回します。
- ▶ ワイヤーロッドを運搬用ガードに引っ掛けます。

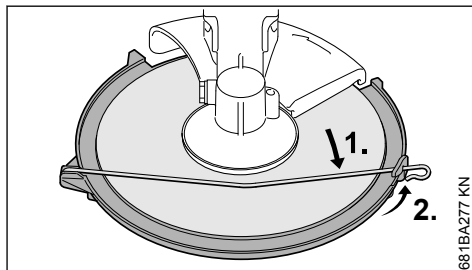
16.5 サークュラーソーブレード



- ▶ 運搬用ガードからワイヤーロッドを外します。



- ▶ ワイヤーロッドを外側に回します。
- ▶ 下側からソーブレードに運搬用ガードを取り付け、リミットストップが適切に溝に配置されていることを確認します。



- ▶ ワイヤーロッドを所定の位置に回します。
- ▶ ワイヤーロッドを運搬用ガードに引っ掛けます。

17 作業中の注意事項

17.1 ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5~15 回分の使用後となります。

17.2 作業中

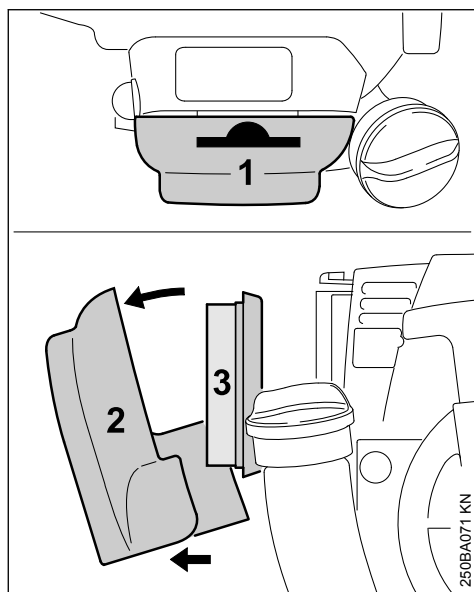
長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品(イグニッションやキャブレター)を熱から守るためです。

17.3 作業後

短期間使用しない場合：エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを空にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。長期間に未使用の場合は、「機械の保管」を参照してください。

18 エアー フィルター

18.1 エンジンの出力が著しく低下した場合



- ▶ チョークノブを **I** の位置に回します。
- ▶ タブ (1) を押し込み、フィルターカバー (2) を取り外します。
- ▶ フィルター(3)の周りとフィルターカバー内部の汚れを取り除きます。
- ▶ フィルターエレメントを取り外して点検します。汚れや損傷がある場合は、交換します。
- ▶ フィルターエレメントをフィルターカバーに取り付けます。
- ▶ フィルターカバーを再び取り付けます。

19 キャブレターの調整

19.1 基本情報

キャブレターは工場出荷時に標準設定されています。

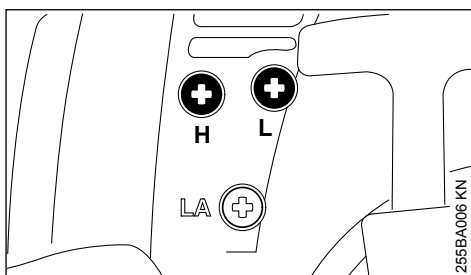
この設定で、ほとんどの運転状況で最適な混合気が得られます。

19.2 準備

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ カuttingアタッチメントを取り付けます。
- ▶ エアーフィルターを点検し、必要場合は掃除あるいは新品と交換します。
- ▶ スロットルケーブルが正しく調整されていることを確認して、必要に応じて再調整します - 「スロットルケーブルの調整」の章を参照してください。

19.3 標準設定

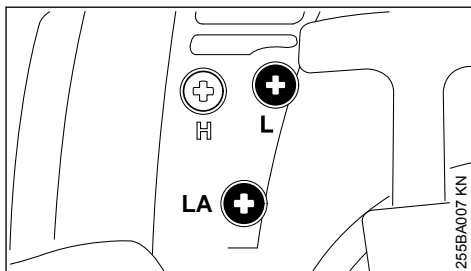
- 高速調整スクリュー (H) = 1 1/2
- 低速調整スクリュー (L) = 1



- ▶ 高速調整スクリュー (H) を時計回りに止まるまで慎重に回します。その後、2 回転戻します。
- ▶ 低速調整スクリュー (L) を時計方向に止まるまで慎重に回します。その後、1 回転戻します。

19.4 アイドリング回転数の調整

- ▶ 標準設定を実行します。
- ▶ エンジンをかけて暖機します。



19.4.1 アイドリング回転中にエンジンが停止する場合

- ▶ エンジンが円滑に作動ようになるまでアイドリングスピード調整スクリュー (LA) を時計回りにゆつくりと回します - カuttingアタッチメントは回転しないはずで

19.4.2 アイドリング中にカuttingアタッチメントが回転する場合

- ▶ カuttingアタッチメントが停止するまでアイドリングスピード調整スクリュー (LA) を反時計方向に回した後、さらに 1/2 ~ 1 回転、同一方向に回します。



警告

エンジンのアイドリング中にカuttingアタッチメントが回転し続ける場合、サービス店に点検と修理を依頼してください。

19.4.3 アイドリングスピード調整スクリュー (LA) が適切に設定されているにもかかわらずアイドリングが不安定で、加速が悪い場合

アイドリング設定が薄すぎます：

- ▶ エンジンが作動し、円滑に加速するようになるまで、低速調整スクリュー (L) を反時計回りに回します。ただし、1/2 回転以上は回さないでください。

19.4.4 アイドリングが不安定な場合

アイドリング設定が濃すぎます：

- ▶ エンジンが作動し、円滑に加速するようになるまで、低速調整スクリュー (L) を時計回りに回転させます。ただし、1/2 回転以上は回さないでください。

一般的に低速調整スクリュー (L) を調整するたびに、アイドリングスピード調整スクリュー (LA) の設定を変更する必要が生じます。

19.5 高地で作業する場合の微調整

エンジン性能が十分でない場合は、次のように微調整を行う必要が生じることがあります：

- ▶ 標準設定を実行します。
- ▶ エンジンを暖機運転します。
- ▶ 高速調整スクリュー (H) をわずかに時計回り (薄くする方向) に回転させます。ただし、3/4 回転以上は回させないでください。

注記

高地から戻った後は、キャブレターを標準設定に戻します。

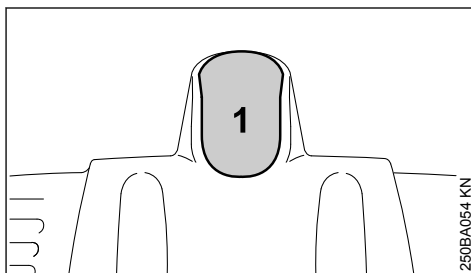
設定を薄くしすぎると、潤滑不足と過熱によってエンジンが損傷する危険があります。

20 スパーク プラグ

- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、先ずスパーク プラグを点検してください。
- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

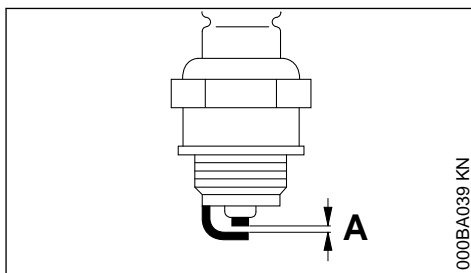
20.1 スパークプラグの取り外し

- ▶ エンジンを停止します。



- ▶ スパークプラグターミナル (1) を抜き取りま
- す。
- ▶ スパークプラグを緩めます。

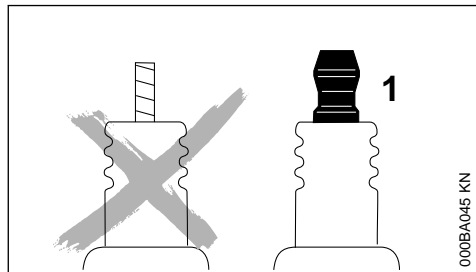
20.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

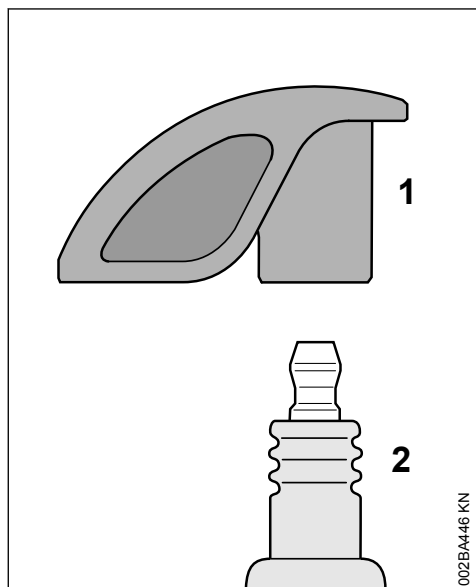
- エンジンオイル混合量の過多
- エアフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境



アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

20.3 スパークプラグの取り付け



- ▶ スパークプラグ (2) をシリンダーにねじ込み、ターミナル (1) をしっかり押し込んで取り付けます。

21 エンジンの動作

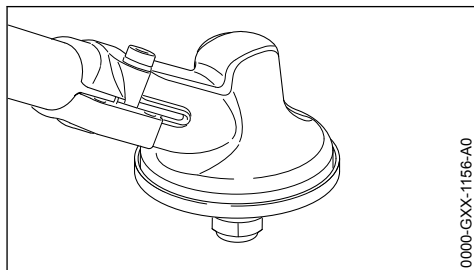
エアフィルターに汚れがなく、キャブレターおよびスロットルケーブルが正しく調整されているにも関わらず、エンジンが不安定な場合は、マフラーに問題がある可能性があります。

マフラーが汚れていないか (カーボンで詰まる)、スチール サービス店で点検してください。

当社は整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

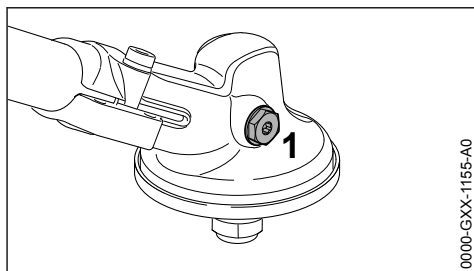
22 ギヤボックスの注油

22.1 スクリュープラグ搭載なしのギアボックス



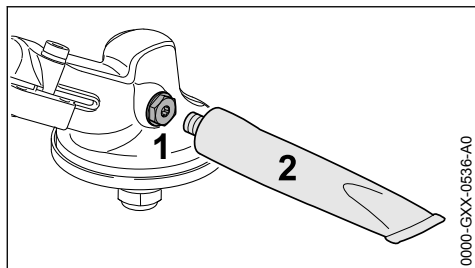
- ▶ ギヤボックスにスクリュープラグが搭載されていない場合：ギヤボックスのメンテナンスおよび注油は不要です。

22.2 スクリュープラグ搭載のギアボックス



- ▶ ギヤボックスにスクリュープラグ (1) が搭載されている場合：運転 25 時間ごとにグリースレベルを点検して、必要があれば再度注油を行ってください。

23.2 スターターロープの交換



0000-GXX-0536-A0

- ▶ スクリュープラグ(1)を外します。
- ▶ スクリュープラグ(1)の内側にグリースが見えない場合：STIHL ギアグリース（特殊アクセサリー）のチューブ(2)を注入口にねじ込みます。
- ▶ 最高 5 g (1/5 oz) のグリースをギアボックスに注油します。

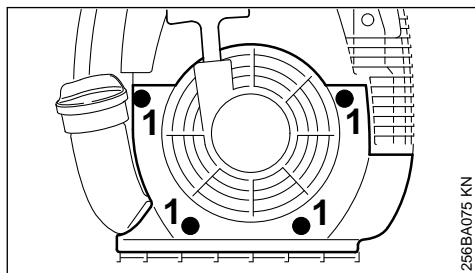
注記

ギアボックスいっぱいに入れないでください。

- ▶ チューブ(2)を緩めて外します。
- ▶ スクリュープラグ(1)を差し込み、しっかりと締め付けます。

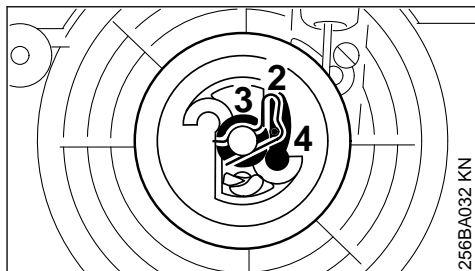
23 スターター ロープとリワインド スプリングの交換

23.1 ファンハウジングの取り外し



256BA075 KN

- ▶ スクリュー (1) を外します。
- ▶ ファンハウジングを外します。



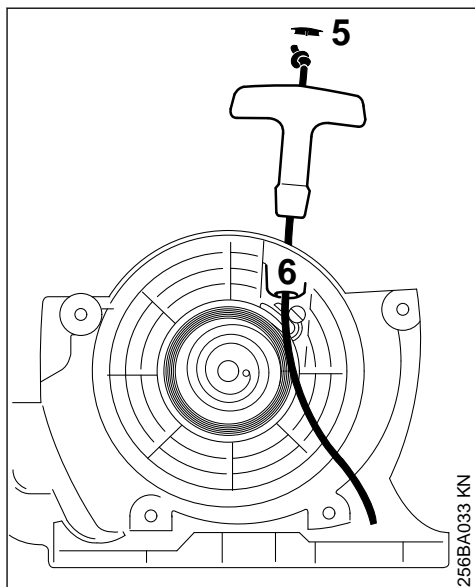
256BA032 KN

- ▶ スプリングクリップ (2) を外します。
- ▶ ワッシャー(3)とボール (4) の付いたロープローターを慎重に取り外します。



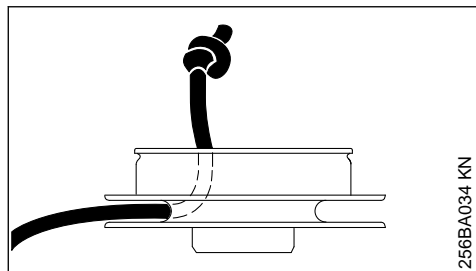
警告

作業中にリワインドスプリングが外れて飛び出すことがあります - ケガをしないように気をつけてください。



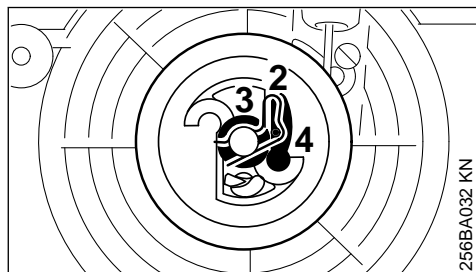
256BA033 KN

- ▶ キャップ (5) をグリップからこじって外します。
- ▶ ローターとスターターグリップに残っているロープを外します。
- ▶ 新しいロープの端で簡単な一つ結びで止め、グリップの先端およびロープブッシング (6) にロープを通します。
- ▶ キャップをグリップに押し込みます。



256BA034 KN

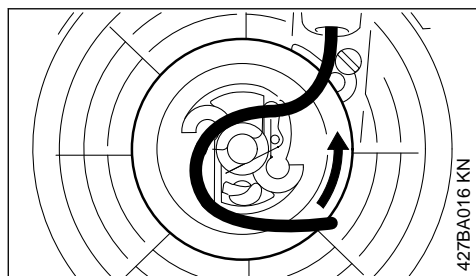
- ▶ 新しいスターターロープをロープローターに通し、簡単一つ結びで止めます。
- ▶ ロープローターのベアリングに非樹脂系のオイルを塗布します。
- ▶ ローターをスターターポストに入れます - 左右に回し、リワインドスプリングのアンカーロープがはまるようにします。



256BA032 KN

- ▶ ボール (4) を取り付けます。
- ▶ ワッシャー (3) を取り付けます。
- ▶ スプリングクリップ (2) を所定の位置に押し込みます - スプリングクリップは図のように、反時計方向に向け、ボールのベグに掛けてください。

23.3 リワインドスプリングを張る



427BA016 KN

- ▶ スターターロープを巻き込んでループを作り、それを使ってロープローターを矢印の方向に 6 回転させます。
- ▶ ロープローターをしっかり押さええます。
- ▶ ロープを引き出してねじれを直します。
- ▶ ロープローターを放します。

- ▶ スターターロープがローターに巻き付くように、ゆっくりロープを放します。

スターターグリップは、ローププッシュにしっかりと固定します。グリップが片側に垂れ下がる場合：もう 1 回ロープローターを回してスプリングの張力を強くしてください。

注記

スターターロープがいったいに張られている時も、ローターがさらに 1 回転半できるようにします。半回転できない場合、スプリングは張りすぎで、**損傷することがあります。**

- ▶ その場合は、ロープをローターから 1 周分外してください。
- ▶ ファンハウジングを取り付けます。

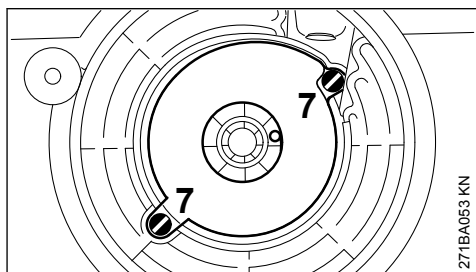
23.4 破損したリワインドスプリングの交換

- ▶ 「スターターロープの交換」の項を参照して、ロープローターを取り外してください。



警告

ファンハウジング内に残ったスプリングには張力があり、ロープローターおよびスプリングハウジングを外す際に、飛び出すことがあります。**ケガの危険を低減するために、顔面シールドおよび作業用手袋を着用してください。**



271BA053 KN

- ▶ スクリュー (7) を外します。
- ▶ スプリングハウジングとスプリングを取り出します。
- ▶ 新しい交換用のスプリングハウジング付きリワインドスプリングに、非樹脂系のオイルを数滴塗布してください。
- ▶ 交換用のスプリングハウジング付きリワインドスプリングを、底面プレートを上に向けて取り付けます。

スプリングがハウジングから飛び出した場合は、時計回りに外側から巻き付けて取り付けます。

- ▶ スクリューを取り付けます。
- ▶ 「スターターロープの交換」の項を参照して、ロープローターを再び取り付けます。

- ▶ リワインドスプリングを張ります。
- ▶ ファンハウジングを取り付けます。

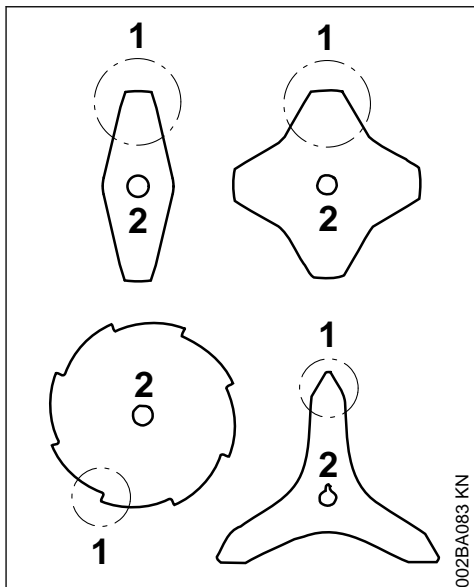
24 機械の保管

約 30 日以上使用しない場合

- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合は、手動燃料ポンプを 5 回以上押します。
- ▶ エンジンを始動し、停止するまでアイドルリングさせます
- ▶ カutting アタッチメントを取り外し、きれいにし点検してください。金属製カutting アタッチメントを保護オイルで処理します。
- ▶ 機械を丁寧に掃除します
- ▶ エアフィルターの清掃
- ▶ 機械を乾いた安全な場所に保管してください。子供などによる許可外の使用を避けてください

25 金属製カutting ブレードの目立て

- ▶ 目立てやすり（「特殊アクセサリ」を参照）を使用して、切れ味が悪くなったカutting アタッチメントを目立てします。磨耗が激しい場合は：グラインダーを使って目立てをするか、サービス店に依頼してください - 当社は、STIHL サービス店に依頼されることを、お勧めします。
- ▶ 目立てはたびたび行い、ほんのわずかが刃先を擦ります。通常の日立てでは、やすりを 2~3 回当てることで十分です。



- ▶ 刃先(1) を均一に目立てします - 元刃(2) の形状を変えないでください。

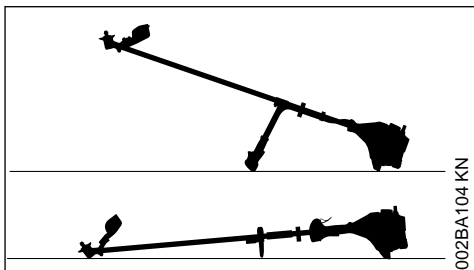
補足的な目立ての注意事項は、カutting アタッチメントの包装を参照してください。パッケージを今後のために保管してください。

25.1 バランスをとる

- ▶ 約 5 回やすりがけした後は、STIHL バランサー（「特殊アクセサリ」を参照）でカutting アタッチメントのバランスが崩れていないか確認するか、または専門店に確認を依頼してください - 当社は、STIHL サービス店に依頼されることを、お勧めします。

26 カutting ヘッドの保守

26.1 パワーツールを地面に置く



- ▶ エンジンを停止します。

- ▶ カutting アタッチメント装着部が上向きになるように、パワーツールを置きます。

26.2 ナイロンラインの交換

必ず草刈ヘッドが摩耗していないか点検してからナイロンラインを交換してください。



警告

摩耗がひどい場合、草刈ヘッド一式を交換してください。

以降では、ナイロンカuttingラインを「ナイロンライン」または「ライン」と呼びます。

草刈ヘッドには、ナイロンラインの交換に関するイラスト付きの説明書が同梱されています。草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください。

- ▶ 必要に応じて、草刈ヘッドを取り外します。

26.3 ナイロンラインの送り出し調整

STIHL スーパーカット

ラインが最低 6 cm (2 1/2 インチ) 残っている場合は、新しいラインが、自動的に送り出されます。長すぎるラインは、デフレクターのブレードで適切な長さに切り揃えられます。

STIHL オートカット

- ▶ エンジンを作動させ、草刈ヘッドを回転させたまま草地の上方で保持します。
- ▶ 地面上で軽く叩きます - 新しいラインが送り出され、デフレクターのブレードで適切な長さに切り揃えられます。

草刈ヘッドで地面を軽く叩くたびに新しいラインが送り出されます。そのため、作業中は草刈ヘッドの切断性能を観察してください。草刈ヘッドで地面を頻繁に叩き過ぎると、ナイロンラインの未使用部分がライン制限ブレードによって不必要に切り落とされます。

両方のラインが最低 2.5 cm (1 in) 残っていれば、ラインは送り出されます。

STIHL トリムカット



警告

ケガをする危険を減らすために、必ずエンジンを停止してから手でナイロンラインを調整してください。

- ▶ スプールを引き上げ - かみ合うまで反時計回りに約 1/6 回転させ - 跳ね戻します。
- ▶ ラインの端を外側に引き出します。

両方のラインがデフレクターのライン制限ブレードに達するまで、上記の手順を必要に応じて繰り返します。

スプールが停止位置から次の停止位置まで回転すると、新しいラインが約 4 cm (1 1/2 in) 繰り出されます。

26.4 ナイロンラインの交換

STIHL ポリカット

カutting ブレードの代わりに、事前に所定の長さに切断したナイロンラインをポリカットに取り付けることができます。

STIHL デュロカット、STIHL ポリカット



警告

ケガをする危険を減らすために、必ずエンジンを停止させてから草刈ヘッドの詰め替えを行ってください。

- ▶ 同梱されている取扱説明書の説明に従い、事前に切断したナイロンラインを草刈ヘッドに取り付けます。

26.5 カutting ブレードの交換

26.5.1 STIHL ポリカット

新しいカutting ブレードを取り付ける前に、必ずカutting ヘッドが摩耗していないか点検してください。



警告

摩耗がひどい場合、カutting ヘッド一式を交換してください。

以降の部分では、プラスチック カutting ブレードを「ブレード」と呼びます。

カutting ヘッドは、ブレードの交換に関するイラスト付きの説明書が同梱されて納入されます。カutting ヘッドに関する取扱説明書を、安全な場所に保管してください。



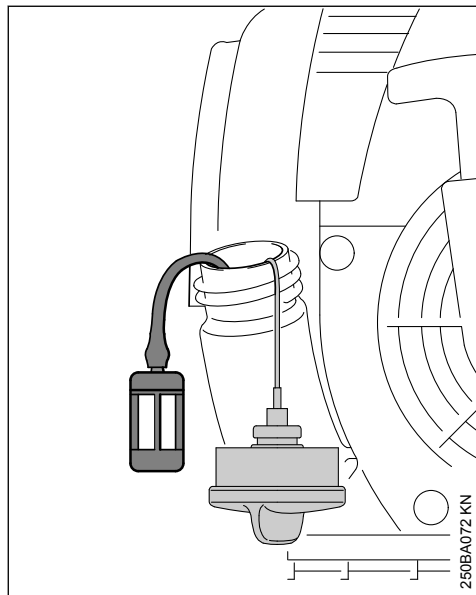
警告

ケガの危険を低減するため、ブレードを取り付ける前に必ずエンジンを停止してください。

- ▶ カutting ヘッドを取り外します。
- ▶ イラスト付き説明書に図示されているようにブレードを交換します。
- ▶ カutting ヘッドを再び取り付けます。

27 ユーザーによる点検と保守

27.1 燃料ピックアップボディの交換



燃料ピックアップボディを毎年交換します。

- ▶ 燃料タンクを空にします。
- ▶ 燃料ピックアップボディをフックでタンクから引き出し、ホースから外します。

29 整備表

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が通常よりも長い、作業条件が悪い場合（粉塵が非常に多い場所等）は、それに応じて、表に示された間隔よりも短くしてください。

| | | 前日 作業開始 | 毎日 作業終了後または 材料・燃料給油時 | 毎週 | 毎月 | 毎年 | 故障時 | 損傷時 | 必要に応じて |
|------------------|---------------------------------|------------|----------------------------|----|----|----|-----|-----|--------|
| 機械本体 | 目視検査(状態、漏れ) | X | X | | | | | | |
| | 清掃 | | X | | | | | | |
| | 損傷部品の交換 | X | | | | | | X | |
| コントロールハンドル | 機能テスト | X | X | | | | | | |
| エアフィルター | 目視検査 | | | | X | | X | | |
| | 清掃 | | | | | | X | | X |
| | 交換 | | | | | | | X | |
| 手動燃料ポンプ(装備モデルのみ) | 点検 | X | | | | | | | |
| | 修理はサービス店に依頼してください ¹⁾ | | | | | | | X | |

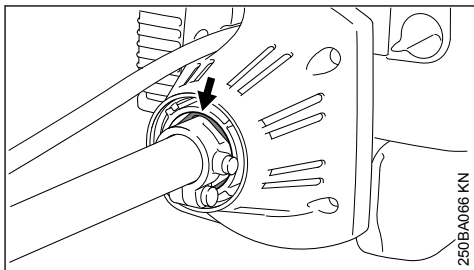
- ▶ 新しいピックアップボディをホースに差し込みます。
- ▶ ピックアップボディをタンクの中に戻します。

28 スチール販売店による点検と保守

28.1 整備作業

STIHL 社では、認定を受けた STIHL サービス店のみに整備や修理を依頼されることをお勧めしています。

28.2 防振装置



振動吸収用ラバーエレメントが、パワーヘッドとドライブチューブの間に取り付けられています。摩耗の兆候があるか、振動レベルが目立って増加した場合は、点検を受けてください。

ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

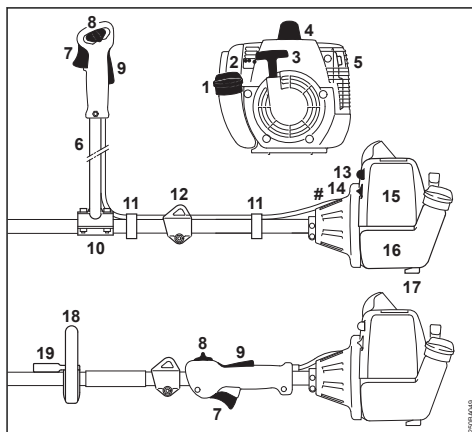
- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エア フィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリット、シリンドー フィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

30.2 磨耗部品

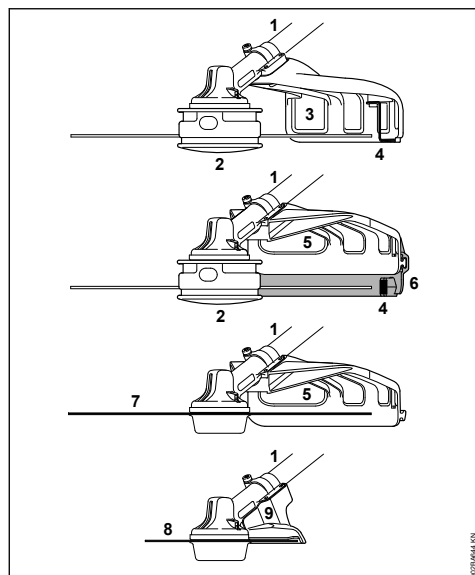
パワーツールの部品によっては、規定どおりに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- カutting アタッチメント (全種)
- カutting アタッチメント固定用パーツ (ライダープレート、ナット等)
- カutting アタッチメント用デフレクター
- クラッチ
- フィルター (エア フィルター、燃料フィルター)
- リワインド スターター
- スパーク プラグ
- 防振エレメント

31 主要構成部品



- 1 タンクキャップ
- 2 キャブレター調整スクリュー
- 3 スターターグリップ
- 4 スパークプラグターミナル
- 5 マフラー
- 6 バイクハンドル (ハンドルバー)
- 7 スロットルトリガー
- 8 スライドコントロール
- 9 スロットルトリガーロックアウト
- 10 ハンドルサポート
- 11 スロットルケーブルリテーナー
- 12 吊り下げ用リング
- 13 手動燃料ポンプ
- 14 チョークノブ
- 15 エアフィルターカバー
- 16 燃料タンク
- 17 マシンサポート
- 18 ループハンドル
- 19 バリアバー (国別仕様)
- # シリアルナンバー (機械番号)



- 1 ドライブチューブ
- 2 草刈ヘッド
- 3 草刈ヘッド専用デフレクター
- 4 ライン制限ブレード
- 5 すべてのカッティング アタッチメント用デフレクター
- 6 草刈ヘッド用スカート
- 7 金属製カッティングアタッチメント
- 8 サークュラソー
- 9 サークュラソー ブレード専用リミット ストップ

32 技術仕様

32.1 エンジン

STIHL 単気筒 2 サイクルエンジン

32.1.1 FS 120

排気量： 30.8 cc
 シリンダー径： 35 mm
 ピストンストローク： 32 mm
 ISO 8893 に準拠したエンジン出力： 1.3 kW (1.8 HP)
 アイドリング回転数： 9,000 rpm
 回転数制御範囲 (定格)： 2,800 rpm
 シャフト最高回転数 (カッティングアタッチメント)： 9,150 rpm

32.1.2 FS 250

排気量： 40.2 cc

シリンダー径： 40 mm
 ピストンストローク： 32 mm
 ISO 8893 に準拠したエンジン出力： 1.6 kW (2.2 HP)
 アイドリング回転数： 9,000 rpm
 回転数制御範囲 (定格)： 2,800 rpm
 シャフト最高回転数 (カッティングアタッチメント)： 9,150 rpm

32.2 イグニッションシステム

エレクトロニックマグネットイグニッション
 スパークプラグ (抵抗入タ NGK BPMR 7 A, イプ)： Bosch WSR 6 F
 電極ギャップ： 0.5 mm

32.3 燃料システム

燃料ポンプ付き全方向ダイヤフラム式キャブレター

燃料タンク容量： 640 cc (0.64 l)

32.4 重量

燃料無しの状態、カッティングアタッチメントとデフレクターを除く

FS 120： 6.3 kg
 FS 120 R： 6.0 kg
 FS 250： 6.3 kg

32.5 全長

カッティングアタッチメントを 1765 mm 除く

32.6 特徴

R ループハンドル

32.7 騒音・振動数値

振動に関する事業主への指令 2002/44/EC の遵守の詳細については、

www.stihl.com/vib をご覧ください。

32.7.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}

草刈ヘッド付き
 FS 120： 98 dB(A)
 FS 250： 102 dB(A)
 金属製草刈ツール付き
 FS 120： 98 dB(A)
 FS 250： 100 dB(A)

32.7.2 ISO 22868 に準拠した音響パワーレベル L_{wep}

草刈ヘッド付き
 FS 120： 109 dB(A)
 FS 250： 109 dB(A)
 金属製草刈ツール付き
 FS 120： 107 dB(A)
 FS 250： 109 dB(A)

32.7.3 ISO 22867 に準拠した振動値 $a_{hv,eq}$

| 草刈ヘッド付き | 左ハンドル | 右ハンドル |
|------------|----------------------|----------------------|
| FS 120: | 6.3 m/s ² | 5.0 m/s ² |
| FS 120 R : | 8.0 m/s ² | 9.0 m/s ² |
| FS 250: | 5.7 m/s ² | 4.3 m/s ² |

| 金属製草刈ツール付 | 左ハンドル | 右ハンドル |
|------------|----------------------|-----------------------|
| FS 120: | 4.9 m/s ² | 4.2 m/s ² |
| FS 120 R : | 9.5 m/s ² | 10.5 m/s ² |
| FS 250: | 5.3 m/s ² | 5.4 m/s ² |

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.0 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s² です。

32.8 REACH

REACH は EC の規定で、化学物質 (Chemical substances) の登録 (Registration)、評価 (Evaluation)、認可 (Authorisation)、規制を意味します。

REACH 規定 (EC) No.1907/2006 の遵守の詳細については、以下をご覧ください。

www.stihl.com

32.9 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO₂ 値は、以下に記載されています -

www.stihl.com/co2

(製品ごとの技術データ)。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。


33 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店にのみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

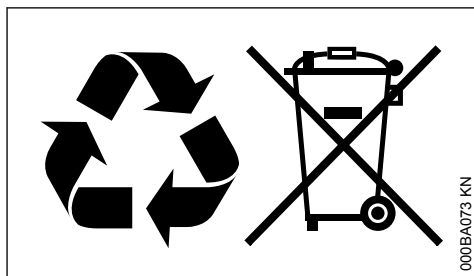
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボル マーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

34 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

35 EC 適合証明書

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

Badstr. 115

D-71336 Waiblingen

Germany (ドイツ)

は、単独の責任において下記の製品が

| | |
|---------|--------|
| モデル: | 刈払機 |
| 製造ブランド: | STIHL |
| タイプ: | FS 120 |
| | FS 250 |
| シリアル番号: | 4134 |

| | |
|---------|----------------------|
| 排気量 | |
| FS 120: | 30.8 cm ³ |
| FS 250: | 40.2 cm ³ |

指令 2011/65/EU、2006/42/EC、2014/30/EU、2000/14/EC の関連する条項に適合しており、以下の規格のそれぞれ製造時点で有効であった版

に準拠して開発および製造されたことを保証いたします：

EN ISO 11806-1、EN 55012、EN 61000-6-1

音響出力レベルは、測定値並びに保証値共に、指令 2000/14/EC の付属書 V の規定、および ISO 10884 基準に従って決定されています。

音響出力レベル測定値

| | |
|----------|-----------|
| FS 120 : | 112 dB(A) |
| FS 250 : | 112 dB(A) |

音響出力レベル保証値

| | |
|----------|-----------|
| FS 120 : | 114 dB(A) |
| FS 250 : | 114 dB(A) |

技術文書の保管：

ANDREAS STIHL AG & Co. KG
Produktzulassung

製品の製造年と機械番号は、機械本体に表示されています。

2022 年 8 月 1 日、Waiblingen にて発行

ANDREAS STIHL AG & Co. KG

代理人



Robert Olma, Vice President, Regulatory Affairs
& Global Governmental Relations



36 アドレス

www.stihl.com

www.stihl.com



0458-250-4321-F



0458-250-4321-F